

小中村清矩旧蔵「六国史」の史学史的位_レ置_レづけについて

—『日本文徳天皇実録』序・卷一・卷二の校注をもとに—

大 沼 宜 規

東洋文庫には、江戸時代末期から明治時代にかけて活躍した国学者小中村清矩（一八二二—一八九五）旧蔵の「六国史」（以下「小中村本六国史」と称す）八十五冊が架蔵されている。^{〔1〕}同書は、『日本書紀』から『日本三代実録』にいたる六種の版本をとりあわせたものであり、『日本後紀』を除き、小中村自筆の詳細な校注が書き入れられている。^{〔2〕}周知のように、国学者は文献の校訂作業を盛んに行っており、本書のような書人本はそう珍しいものではない。しかし、本書が特筆すべきであるのは、日本史研究の基本的史料集である「国史大系」が明治時代に出版されたとき（経済雑誌社刊。「六国史」はいずれも明治三十年（一八九七年）出版。以下同版のことを「明治版「国史大系」と称す）、「六国史」の底本として用いられたところにある。それぞれの版本自体は、塙保己一による校訂版本である『日本後紀』を除けば、十分な校訂を経っていない仿刻本であるので、小中村による校訂の書入れが評価された結果、用いられたものと考えられる。

筆者はこのことに着目し、以前『日本書紀』をとりあげて明治版「国史大系」と小中村本六国史の頭注を比較検討

したことがある³⁾。その結果、明治版「国史大系」の『日本書紀』に付された標注の多くは、小中村本六国史の『日本書紀』に付された標注に基づいて作成されたものであることが判明した。このことにより、史学史研究において否定的に評価されることが多かった幕末から明治時代の考証派の国学者について、史料整備という歴史学の基盤作りに貢献した存在として再評価を試みた。

このときは標注の内容をもとに数量的に分析することにとどめたが、小中村の校訂作業を考えるためには、内容にも目を向けるべきだろう。そこで本稿においては、小中村本六国史のなかで作業が最も進捗していた『日本文徳天皇実録』に着目したい。後述するように、小中村は「六国史」のなかでも『日本文徳天皇実録』の校訂を優先して進め、序・巻一から巻三までは、校定本である『文徳実録校本』（以下「小中村校定本」と称す）と校定の判断理由などを記した『文徳実録校本攷異』（以下「小中村攷異」と称す）を作成していた⁵⁾。つまり、『日本文徳天皇実録』の巻三までについては、ひととおりの作業を終了させていたといえることができる。小中村校定本や小中村攷異は、明治版「国史大系」に活用された形跡はないものの、小中村による作業の進捗を考える上では重要な資料といえる。

本稿では、『日本文徳天皇実録』について小中村本六国史、小中村校定本、小中村攷異、明治版「国史大系」、「新訂増補国史大系」（吉川弘文館刊。「六国史」は昭和九・十年（一九三四・一九三五年）出版。以下「新訂増補版」「国史大系」と称す）を比較検討することで、小中村の校訂作業について評価を試みるとともに、小中村本六国史の位置づけを明らかにしていきたい。なお、以下の本文中には、既に別稿で触れた部分があるが、行論上、内容の重複があることをお許しいただくとともに、補訂した部分があることをご了解いただきたい。

一 小中村本六国史作成の事情

まずは、小中村が「六国史」校訂に志した背景について確認をしておきたい。

「六国史」の出版は、慶長四年（一五九九年）に後陽成天皇による勅版『日本書紀』（古活字版。「神代卷」のみ）が刊行されたことに始まる。その後、同十五年には古活字版の『日本書紀』全巻が刊行された。さらに、寛文九年（一六六九年）には整版による『日本書紀』が刊行された。これが『日本書紀』の流布本となったが、同書は必ずしも十分な校訂がなされたものではなかった。このころになると、伝本が長く出現しなかった『日本後紀』をのぞく他の「四」国史も出版されるが、校訂が不十分なのは、『日本書紀』と同じであった。⁽⁸⁾

このような状況の改善を志した一人に和学講談所を設立した塙保己一がいる。寛政十年（一七九八年）、塙は和学講談所において十三種（「日本書記」「続日本紀」「続日本後紀」「日本文徳天皇実録」「日本三代実録」「日本紀略」「扶桑略記」「百練抄」「令義解」「類聚三代格」「儀式」「西宮記」「江家次第」）の文献を出版する計画をたてた（ほか「日本後紀」「類從符箋抄」「政事要略」も）。だが、この計画に掲げられた文献のなかで実際に出版されたのは「日本後紀」「令義解」「百練抄」のみであった。⁽⁹⁾「六国史」のなかでは「日本後紀」のみということになる。「六国史」校定本の作成及び出版は、幕末期の国学者にとって課題であったといえよう。このことに着目したのが、当時、紀伊藩江戸藩邸にあった和学に関する学問所古学館に出仕していた小中村である。おそらく文久元年（一八六一）のこ

とであるが、十一月二十三日、小中村は紀伊藩に次の建言を行った⁽¹⁾。

六国史者皇朝之大典ニ御座候処、御当代ニ相成、訪問にて刊行致候本は其始校訂甚麓漏ニ致候故、誤脱等数多御座候に付、学者は先古写本を以数度校合之勞手数甚相懸り、初心之書生は読分難く難渋至極致候義ニ御座候、近来々々国学相聞ケ^(兩字) 公辺にても格別之御世話有之、諸家にて和漢之書籍数部御蔵板に出来致候内、雲州家之延喜式・仙石家之類聚国史等と、訂正も甚宜敷、実に昇代之盛事ニ御座候、然処六国史は大部之義にも御座候間、未タ善本刊行無之候ニ付、何卒当御学館ニ於て諸人数年之精力を尽し訂正之善本出来致^(平出) 禁裏^(兩字) 公辺等へ御進獻ニ相成、世間へ頒行致候ハ、殊ニ御学館之美事ニ可有之ニ乍恐奉存候、右ニ付万一拙意も御取用ヒ相成校刊御取立之趣にも相成候ハ、其始先仕法を正敷可致義ニ御座候間、拙意ニ存寄候次第麓々試ニ左に申上候⁽¹⁾

建言のなかで小中村は、「六国史」が日本の重要文献であり江戸時代以降民間で出版されているが、校訂が「麓漏」で「誤脱」が多数あると述べた。そのため、学者は古写本を入手して数度にわたり校合をしなければならず、初学者にとつては文意が通らず読解が困難で難渋していると主張したのである。

小中村の主張は、必ずしも大げさなものとはいえない。たとえば、『日本書紀』卷三の「即位前記」部分にある「關天關披雲路駢仙蹕以戻止」は、寛文九年版本では「關天開披雲路駢山蹕以戻止」とある。この後とりあげる『日本文徳天皇実録』においても、卷一の「后亦與弟右大臣氏公朝臣」(新訂増補版「国史大系」本11頁2行。別表267。以下『日本文徳天皇実録』の引用は新訂増補版「国史大系」の頁数・行数、別表の項目番号で示す)とあるべき部分は、寛政八年版本では「后亦與弟右大臣氏公朝臣」とある。同じく卷一の「紀朝臣道茂」(6頁10行。別表145)と

あるべきところは「紀朝臣道藏」とあり、巻二の「新羅人」(22頁5行。別表597)とあるべきところは「新罪人」とある。このような誤りの例は多数みられるのである(傍線は大沼による)。

そこで小中村は、出雲松江藩で出版した『延喜式』(雲州本。藩主松平齊恒が塙保己一に命じて作らせた)や旗本仙石政一が校訂して出版した『類聚国史』の校訂が優れていることを示し、「六国史」を校訂・出版すれば、紀伊藩古学館にとって美事となると論じたのである。

つぎに、具体的な作業手順についても記している。

校合之次序は、日本紀が可相始義ニ候得共、先最初に小部之書が取懸り、速ニ成功出来致候上にて大部之書ニ取懸り候方可然と存候間、先文徳実録が相始候ハ、如何と被存候¹³

小中村は『日本書紀』から作業を行うのが筋道であるとしながらも、小部の書物より作業を開始し実績を挙げたうえで大部の書物に取りかかるべきであると考えた。そこで、まずは全十巻と他に較べて小部である『日本文徳天皇実録』を優先しようとしたのである。

つづけて、校合する対象について次のように述べた。

文徳実録は狩谷望之・内藤広前・山崎知雄其外諸家之校本も可有之候得共、古写本が校合致不申候ては無覚束義ニ御座候間、尾水御両家・丹鶴書院・塙氏其余蔵書家が御取寄ニ相成候ハ、七八本は集り可申と存候間、其書等見合、其上ニ而学者之校本ニ尚又比校致候ハ、大方夫ニ而精密ニ校正行届可申ニ存候、但類聚国史・日本紀略・三代格・政事要略其余之諸書にも実録之文を引用候処は自ら一書ニ御座候間、其等をも見合可申候事¹⁴

小中村は、(一) 狩谷椽齋(一七七五—一八三五)・内藤広前(一七九—一八六六)・山崎知雄(一七九八—一八六一)ら、優れた文献研究を行っていた先学の校本、(二) 尾張徳川家・水戸徳川家、丹鶴書院(紀伊徳川家の支藩新宮藩主で蔵書家としても知られていた水野忠央の文庫)、和学講談所など諸文庫の蔵書、(三) 『類聚国史』『日本紀略』『類聚三代格』『政事要略』などに引用された『日本文徳天皇実録』の文章を校合することが必要だと考えたのである。

実は小中村は、この建言の数年前にあたる嘉永六年(一八五四)頃から私的に「六国史」の校訂作業を進めており、ある程度進捗して見通しを得た段階で建言を行ったものらしい。「此校訂モト私ノ為ニセシ事ナリシニ、公命ヲ奉テ(中略)再訂上木スル事ニナリシ事」と記している。建言は藩の許すところとなり、「野生ト同ク此事ヲ命セラレ校訂浄書等ニアツカリシハ渡辺魯輔、山澤與輔二人ナリ」と記すとおり、紀伊藩から担当者がつけられた。すなわち、小中村本六国史は紀伊藩古学館による「六国史」校定本作成事業のなかで、小中村が校訂したものである。建言によれば、小中村は『日本文徳天皇実録』の校合を一年程度で終える想定であった。

右之趣ニ致候ハ、一ケ年程ニ而文徳実録校合出来可致ニ存候間、本文校異之草稿を黒川春村・内藤広前杯々精密家へ被仰付、一通り猶又訂正致候上にて刊行ニ相成候ハ、¹⁷ 龜漏之謬も相免れ善本出来可致と存候。校合内容をまとめた校異の草稿を作成した後には、黒川春村(一七九九—一八六七)や内藤広前といった「精密家」すなわち緻密な文献学者に訂正を依頼するつもりであったのである。

それでは、実際には『日本文徳天皇実録』の校訂作業は、どこまで進捗したのであろうか。前述のとおり小中村は、

小中村本六国史をもとに、巻三まで小中村校定本と小中村攷異を作成した⁽¹⁸⁾。小中村攷異の「例言」を文久二年八月に記し、同年閏八月朔日には同書の巻一を作成している。ところが、その後作業は停滞したようである。これは文久三年に小中村が和学講談所に出仕を命ぜられたことと関係があるものと思われるが、それでも慶応二年（一八六六年）二月十六日に小中村攷異の巻二、同年五月十六日には巻三を作成した。小中村校定本が完成したのも小中村攷異各巻と同時期とみてよいだろう。小中村は小中村攷異を執筆した後も山澤與輔・渡邊魯輔、自身と同じく伊能穎則門下の木村正辞（一八二七—一九一三）に意見を求めていたらしく、小中村攷異には彼らの書入もみられる。巻二に関しては木村が疑問点をまとめた「文徳二攷異存疑⁽¹⁹⁾」も残されている。黒川・内藤に依頼するつもりであった「精密家」の役目は木村に白羽の矢を立てたのである。

ところが、小中村攷異の巻三が執筆された後、校定事業自体が中断する。

コレハ先年藩ニ在シ時、六国史校本刊行アラン事ヲ建白シテ、マツ文徳天皇実録ヨリ取カ、リ、三巻出来ノ後、故有テ休業セシ也⁽²⁰⁾

「故有テ」とあるが、維新期の混乱で事業を休止せざるを得なかったのであろう。

その後、紀伊藩における「六国史」の校定本作成作業は、再興することなく終焉を迎えるが、明治二年（一八六九年）になると、小中村は、木村、さらに同門の横山由清とともに、明治政府から「六国史」の校正を命ぜられ、再び作業にとりかかった。これは、木村正辞の運動による面が大きかったらしい。その後、木村の師で『六国史攷文』の著作のある岡本保孝（一七九七—一八七八）も加って作業を進めた結果、『日本文徳天皇実録』は文部省において校

「定本が作成され、一部は校正刷が作られる段階にまで至ったのであるが、この事業も明治四年頃中絶した²¹⁾。小中村らは、「六国史」校定本作成という目標を達成することはできなかったのである。

しかし、後に小中村自ら「六国史共に、今の刊本誤脱多し、良き古写本にて校訂すべし²²⁾」と記すように、校定本の必要性がなくなつたというわけではない。その欠陥を埋めるべく努力したのが歴史学者黒板勝美（一八七四—一九四六）である。黒板は『群書類従』の活版本出版を担った経済雑誌社の社主田口卯吉の支援を得て、「国史大系」の一部として「六国史」の校訂を進めた。その際に底本として取り上げたのが小中村本六国史であったのである。

二 小中村本六国史の書入れ内容

ここで、小中村本六国史の略書誌を示し、書入内容を整理しておきたい。なお、書帙の題簽には「小中村本六国史」と記されており、『岩崎文庫和漢書目録』にも「六国史」と一括して登録されているが、取り合わせ本であるので、それぞれに確認していき²³⁾たい。

○日本書紀 三十卷〔舍人親王等奉勅撰〕〔京都〕 武村市兵衛昌常・村上勘兵衛元信・山本平左衛門常知・八尾甚四郎友春 寛文九年（一六六九年）刊 十五冊 二七・五×一九・四 cm 印記：「鎌子末流」「陽春廬記」「東洲文庫」

- ・安政四年正月 『類聚国史考異』等と校合（巻一・巻二）。
- ・安政四年三月～五年二月 内藤広前校本と校合、標注を記入。
- *内藤広前校本は、「尾州御本」「水戸御本」、伴信友校本と校合したもの。以下、本の説明は書入による。
- ・安政四年四月～八月 本居氏校本と校合（巻三～巻十二）。
- ・安政四年十月～五年八月 訓点を訂正（巻三～巻三十）。
- ・安政六年九月二十三日 伴信友「長等之山風」説の一部を標注として記入（巻二十七・巻二十八）。
- ・元治元年四月二十五日 「丹鶴叢書」所収の嘉元古本と校合（巻一・巻二）。

○続日本紀 四十巻 菅野真道等奉勅撰 京師 出雲寺和泉掾 明暦三年（一六五七）跋刊 二十冊 二五・六×一八・六cm。印記：「陽春廬記」「東洲文庫」

・嘉永五年二月～安政二年二月四日 岡本保孝『六国史攷文』と校合。

　　*塙保己一校本（紅葉山文庫所蔵の卜部兼敦伝写本（延文中兼豊修補・応永中兼熙転写）、卜部兼夏伝写本等との校合本）、鴨本（狩谷檢斎所蔵本）、狩谷檢斎による手校（『類聚国史』、『日本紀略』、『類聚三代格』、

『扶桑略記』）等と校合。

・安政五年三月～同年七月二十日 内藤広前校本・村尾元融『続日本紀考証』との校合。

　　*内藤広前校本は、尾張徳川家所蔵の金沢文庫本、尾張徳川家所蔵の古写『日本紀略』、『類聚国史』、紀伊徳

川家所藏古写本（永正十二年奥書）、『政事要略』、『万葉仙覚抄』、『僧綱補任』、『二代要記』、『扶桑略記』と校合。

*村尾元融『続日本紀考証』は、堀正意本、豊宮崎文庫所蔵本、「永正写本」、卜部家写本、鴨氏藏古本、金沢文庫本、『日本紀略』をもとに作成。

○日本後紀 卷五・八・十二〜十四・十七・二十〜二十二・二十四 藤原冬嗣等奉勅撰（寛政十一年（一七九五）塙保己一刊） 十冊 二六・六×一八・四cm 印記：「陽春廬記」「東洲文庫」

・明治十六年三月二十二日 佐藤誠実所蔵本により校合（卷二十四末による）。

*佐藤誠実所蔵本は、谷森善臣（伴信友校本から書写（弘化四年）、天文書写本と対校（嘉永六年））の所蔵本の内容を書写。

※「右日本後紀残缺第五第八第十三第十四第十七第二十第廿二第廿四合八卷門人稲山行教於京都写之以類聚国史日本紀略等諸書校合畢 寛政十一年十月日 検校保己一」とあり。

※小中村とは異なる書入れ多数あり。

○続日本後紀 二十卷 藤原良房等奉勅撰 洛 出雲寺林元章 寛政七年（一七九五）（出雲寺和泉掾後印） 十冊
二五・五×一八・三cm。印記：「陽春廬記」「東洲文庫」

・安政二年二月十四日～四月二十日 岡本保孝『六国史攷文』と校合。

* 『六国史攷文』は、紅葉山文庫所蔵官本・天文本、塙保己一所蔵本（同上）、細井貞雄所蔵本、細井貞雄所蔵別本、井上作左衛門所蔵本、安田躬弦所蔵本、大塚嘉樹所蔵本などによる。以上は狩谷掖斎の手校・考証によるもの。

・安政五年十一月一日～十八日 丹鶴書院本と校合（巻一～巻十）。

・安政六年七月二日 内藤広前所蔵本と校合（巻一・巻二）。

○日本文徳天皇実録 十卷 藤原基経等奉勅撰 元章 寛政八年（一七九六） 十冊 二五・八×一八・八cm 印記：「陽春廬記」「東洲文庫」

・安政二年八月二日～八月八日 岡本保孝『六国史攷文』と校合。

* 『六国史攷文』は、狩谷掖斎が校合した野間三竹所蔵の古抄本（白雲本）、同書に含まれる校注、橘（大塚嘉樹所蔵の古抄本、『類聚国史』、『日本紀略』、狩谷掖斎による考証によるもの）。

・文久二年五月六日～同三年正月十八日 丹鶴書院所蔵の古本・山崎知雄校本と校合（朝田弓槻所蔵）。

* 山崎知雄校本は、朝田弓槻所蔵古本、橘嘉樹所蔵本・白雲本、狩谷掖斎による『類聚国史』などとの校合を経た本。

・文久二年八月八日～四年正月四日 温古堂文庫所蔵の古本と校合。

・文久二年閏八月二日～文久三年二月晦日 内藤広前校本と校合。

*内藤広前校本は尾張徳川家所蔵本・伴信友校本・橘嘉樹校本・狩谷椋斎校本などとの校合を経た本。

・元治元年四月五日～同二年正月元日 温古堂所蔵の別本と校合（巻一～巻三）

・慶応二年六月二十二日～三年正月十二日 黒川春村校本と校合。

*黒川春村本は、弘化二年に細井尚阿の所蔵する古鈔本との校合、山岡明阿弥の校本との校合を経たもの。細井本は水戸本との校合をも収める。

・慶応二年十二月 昌平坂学問所所蔵本と校合（巻十の終了は二十五日）。

○日本三代実録 五十卷 藤原時平等奉勅撰 江戸・京都・大阪 須原屋茂兵衛・須原屋伊八・山城屋佐兵衛・岡田

屋嘉七・小林新兵衛・英大助・西宮弥兵衛・金花堂佐助・勝村治右衛門・秋田屋太右衛門 二十冊 二四・九×一

八・二cm 蓬蒿舎蔵版 印記：「平田氏記」「陽春廬記」「東洲文庫」

・安政二年六月十八日～七月二十六日 岡本保孝『六国史攷文』と校合。

*『六国史攷文』は、狩谷椋斎による安田躬弦所蔵本、細井貞雄所蔵本、『類聚国史』、『日本紀略』、『類聚三代格』との校合、椋斎の考証によるもの。

・安政六年三月二十九日～六月二十九日 内藤広前校本・丹鶴書院所蔵本（巻四十九・巻五十欠）と校合。

*内藤広前校本は尾張徳川家本と校合、『類聚国史』に出現した項目を示したもの。

*丹鶴書院校本は朝田弓槻所蔵本との校合本。

「はじめに」で記した通り、『日本後紀』を除けば本文は十分な校訂を経ていない流布本が用いられていたことが明らかである。ここで小中村本六国史の書入を整理して、校合を年代順に並べると、以下のとおりとなる。

嘉永六年九月～安政二年二月 続日本紀・岡本保孝『六国史攷文』

安政二年二月～四月 続日本後紀・岡本保孝『六国史攷文』

安政二年六月～七月 日本三代実録・岡本保孝『六国史攷文』

安政二年八月 日本文徳天皇実録・岡本保孝『六国史攷文』

安政四年一月 日本書紀・『類聚国史考異』等（巻一・巻二）

安政四年三月～五年二月 日本書紀・内藤広前校本

安政四年四月～四年八月 日本書紀・本居本（巻三～巻十二）

安政四年十月～五年八月 日本書紀・訓点訂正（巻三～巻三十）

安政五年三月～七月 続日本紀・内藤広前校本、村尾本

安政五年十一月 続日本後紀・丹鶴書院所蔵本（巻一～巻十）

安政六年三月～六月 日本三代実録・内藤本、丹鶴書院所蔵本

安政六年七月 続日本後紀・内藤本（巻一・巻二）

安政六年九月 日本書紀・伴信友「長等之山風」（巻二十七・巻二十八）

文久二年五月～三年一月 日本文徳天皇実録・丹鶴書院本、山崎知雄校本

文久二年閏八月～四年一月 日本文徳天皇実録・温古堂所蔵本

文久二年八月～三年二月 日本文徳天皇実録・内藤広前校本

元治元年四月 日本書紀・「丹鶴叢書」本（巻一・巻二）

元治元年四月～同二年一月 日本文徳天皇実録・温古堂所蔵の異本（巻一～巻三）

慶応二年六月～三年一月 日本文徳天皇実録・黒川春村校本

慶応二年十二月～三年一月 日本文徳天皇実録・昌平坂学問所の所蔵本

明治十六年三月 日本後記・佐藤誠実所蔵本

小中村は、はじめ岡本保孝の『六国史攷文』及び内藤広前の校本により『日本後紀』を除く「五」国史の校訂を行い、文久二年（一八六二年）頃からは主に『日本文徳天皇実録』の諸本を校訂した。いうまでもなく、紀伊藩に対する建言の結果、『日本文徳天皇実録』を優先する必要性が生じたからである。

書入れ内容は、必ずしも小中村自ら調査したものばかりではない。たとえば、『日本文徳天皇実録』であれば、岡本・内藤の校本には野間三竹（一六〇八―一六七六）・山岡浚明（一二七二六―一七八〇）・細井貞雄（二七七二―一八

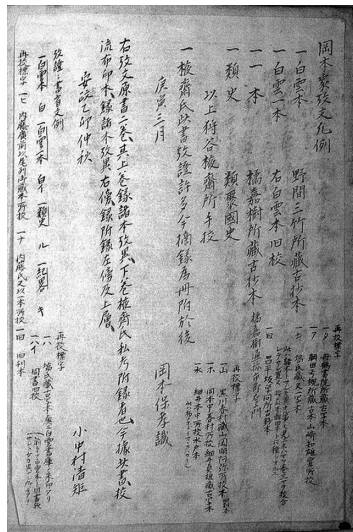
二三）・狩谷楳斎ら著名な学者の校合や見解も写しとられている。また、小中村は山崎知雄、黒川春村の校本の確認もしている。狩谷・内藤・岡本・山崎・黒川と並べると、江戸時代後期から幕末期にかけての代表的な考証派の国学者がほとんど漏れることなく挙げられていると考えてよい。小中村は、著名な先学の研究成果を集積し、検討を加えていった。小中村本六国史は当時の校訂の水準を示すものであったと考えても差支えないであろう。²⁴

三 小中村本『日本文徳天皇実録』の校訂内容

それでは、小中村本六国史の『日本文徳天皇実録』（以下「小中村本文徳実録」と称す）は、いかなる校訂内容を持つのであろうか。

江戸時代に刊行された『日本文徳天皇実録』には寛文九年（一六六九年）版（宝永六年（一七〇六年）後印もあり）と寛政八年（一七九六年）版がある。さらに、寛政八年版には改訂版もある。改訂版は、たとえば「伴」を「伴」に修正するなどの違いが見られる。小中村本は寛政八年版（修正前の版）である。

小中村本文徳実録は、全巻にわたり小中村自筆で対校した本の情報（異体字、形の似た字、脱字や衍字など）、事実関係が誤っていた場合などに必要な校定の根拠となる事実の確認、語彙の考証などが書入れられている。対校した諸本については、書入れ時に記号で情報源が分かるようにされている（写真・表²⁵）。本稿ではまず、序・巻一・巻二を対象として本文の異同、標注・傍注に着目して、（一）明治版「国史大系」、（二）新訂増補版「国史大系」、（三）



(写真) 小中村本文徳実録第一冊見返し

| | 内容 | 略記号 | |
|----|-----------------------------|------------------|--------|
| 1 | 野間三竹所蔵の古鈔本 = 白雲本 | 白 | |
| 2 | 岡本保孝の『六国史攷文』 | 白雲本旧校 | 白イ |
| 3 | | 橘嘉樹所蔵の古鈔本 | (記載なし) |
| 4 | | 『類聚国史』 | ル |
| 5 | | 内藤広前による尾州御蔵本との校本 | ヒ |
| 6 | 内藤氏による別本との校本 | ナ | |
| 7 | 旧刊本 (寛文九年刊本) | 旧 | |
| 8 | 堀氏蔵の古写本 (奥に白雲書庫の朱印あり) | ハ | |
| 9 | 同書旧校 | ハイ | |
| 10 | 丹鶴書院所蔵の古写本 | タ | |
| 11 | 朝田弓槻所蔵の古本 (山崎知雄による校本) | ア | |
| 12 | 堀氏蔵の別本 | 土 | |
| 13 | 昌平坂学問所蔵の古鈔本 | 日 | |
| 14 | 黒川春村所蔵の山岡明阿弥校本 | 山 | |
| 15 | 同本に含まれている春村による細井貞雄蔵の古写本との校合 | 細 | |
| 16 | 細井本に含まれた水戸本との校合 | 水 | |
| 17 | 『日本紀略』 | キ | |

(表) 小中村本文徳実録の対校対象と略記号

小中村本文徳実録の注、(四) 小中村校定本、(五) 小中村攷異を比較した卷末の別表を作成した。採録内容の詳細は凡例を確認していただきたいが、異体字の統一・各日の干支が掲載された『類聚国史』の丁数など除いたものもある。別表には643件の項目がある。以下、別表をもとに小中村本文徳実録中の校注・内容についてみていきたい。

(1) 小中村本文徳実録の書入

(ア) 校合の傍注

対象とする範囲において、355件の校合の傍注を確認することができた。⁽²⁷⁾ それらのなかには、別に標注を立てて考証を加えたものや、傍注脇に「恐非」(おそらく非)などと判断が記されたものもあるが、多くは単純に異本との校合結果を記録したものであり、小中村自身の意見は記されていない。たとえば、「閣閣」(11頁2行、別表269)には、「済々 タアハナ土白山細日々 旧」と校合の傍注がある。これは、「閣閣」部分は、丹鶴書院所蔵の古写本、朝田弓槻の所蔵本(山崎知雄所校)、塙氏の所蔵本、内藤広前の校正本、塙家所蔵の別本、野間三竹の所蔵本、黒河春村所蔵本の山岡俊明校正、黒河春村所蔵本の細井貞雄校正、昌平坂学問所の所蔵本では「済々」とあり、寛文九年刊本では二字目の「閣」に「々」が用いられているという意味である。諸本の記載内容は判明するが、ここからは小中村の判断を知ることができない。それを確認するためには、小中村校定本・小中村攷異を確認する必要がある。⁽²⁸⁾ 「閣閣」の例について確認すると、小中村校定本には「済々」とあり、小中村攷異には「原作閣閣、抛水本白本朝本内本細山旧校改」と文字を改めた理由を示している。

「第右大臣」（11頁2行、別表267）には「弟 一本タアナ土日」と、諸本において「弟」と記されていることが注記されている。これも小中村攷異を確認すると、「第右大臣氏公朝臣」と標目が立てられ、「弟原作弟、抛水本朝本大本内本改」とし、小中村校定本では、「弟」と改められている。

（イ）固有名詞に関する標注・傍注

固有名詞には、しばしば標注・傍注が付されている。標注は墨筆、青筆で記入されたものが多く、それぞれ岡本保孝・山崎知雄による標注を書き写したものである。小中村自身の調査ではないが、必要性を認識して書写したものと見える。

傍注・標注を幾つか例示したい。まず、ごく簡単に事実を補記するものがある。たとえば、「檀林寺」（11頁1行、別表266）には「拾芥抄廿五大寺」と、「広瀬神」（13頁4行、別表325）には「入間郡式」と、「柏原山陵」（20頁8行、別表528）に「桓武」とある。

一方、「大原」（20頁10行、別表531）には「大原淳和天皇乎、統後紀淳和天皇崩之条云、御骨碎粉奉散大原野西山嶺上」と、「有乳母姓神野」（11頁11行、別表279）には「有乳母姓神野、統紀延暦十年正月紀甲戌太秦公忌寸浜刀自女賜姓賀美能宿称、賀美能親王之乳母也」と説明がある。いずれの場合であっても、典拠となる文献を挙げるものが多く、「柏原山陵」の例のように、事実のみ記し典拠となる文献名を掲載しないものは僅かしかみられない。ここからも典拠となる文献に基づき注を記入しようとする考証派の国学者たちの研究姿勢をみてとることができる。

考証を加えている例も確認しておきたい。「藤原朝臣緒数」の「緒」（4頁1行、別表58）に対し、小中村本文徳実録には「諸略」と傍注がある。これは、『日本紀略』に「諸」とあるという意味であるが、さらに標注に「清云、緒数統後紀十八オ作諸数、同十九オ作緒数、此史此及三四オ四五オ共作緒数」とある。「清云」の「清」は小中村清矩のこと。小中村は『続日本後紀』巻十八に「諸数」、巻十九そのほかに「緒数」とあることを指摘した。小中村攷異にもまた、「緒数紀略作諸数、按続日本後紀嘉祥元年正月戊辰条、作諸数、同二年二月丁丑条、及本史此文、仁寿元年二月甲子条、同二年十月甲子、共作緒数、緒諸草体相似、雖未知何是姑徒多」と記している。『日本紀略』と『続日本後紀』嘉祥元年正月戊辰条に「諸」とあること、『続日本後紀』同二年二月丁丑条と、『日本文徳天皇実録』の当該文、仁寿元年二月甲子条、同二年十月甲子条に「緒」とあることを指摘し「緒」と「諸」は草書体が似ているため判断はつかないが、他の典拠を見出すまでは、仮に多く登場する「緒」に従うとした。小中村校定本でも「緒」を採用している。このような丹念な検討のうえで、本文中の文字を定める作業を行っていたことが分かる。

(ウ) 語彙の考証

特定の語彙について典拠となる文献を示す注が付されている場合もある。たとえば、「憲章」（1頁2行、別表4）には「中庸三十章」と、「七廟」（5頁9行、別表18）には「曲礼」とある。典拠文献を求め語彙を確定していた。また、「東宮雅院」（3頁5行、別表53）には「東宮雅院、古今集東宮雅院にて桜の花のミかは、水にちりてなかけけるをミて、拾芥抄中雅院或職御曹司傍東宮城内東前坊中御門北匣東保明門慶明御此所西前坊中御門北匣西東宮御在所也」

と、「学窟院」(11頁2行、別表268)には「学窟院、拾芥抄、学館院橋氏諸生別曹、清按宦俗官字見篇海」と、「三靈」(17頁9行、別表419)には「三靈、陸士衡漢高祖功臣頌、三靈改卜、春秋元命苞曰、造起天地鑄演人君、通三靈之眚、交錯同端、班孟堅典引云、答三靈之蕃址、李善曰、三靈天地人也」と、文徳天皇の「文徳」(3頁1行、別表47)には「尚書、大禹謨帝乃誕敷文徳、詩大雅江漢篇矢其文徳洽此四国、漢刑法志文徳者帝王之利器威武者文徳之補助也」とある。

右の例からも分かるように典拠として引用される資料は、和書・漢籍の別を問わない。和書であれば、「異称日本伝」『以呂波字類抄』『葛原詩話』『菅家文章』『広隆寺縁起』『古今集』『古今為家抄』『後拾遺集』『戸令』『日本三代実録』『拾芥抄』『歴朝詔詞解』『初例抄』『延喜式神名帳』『続日本後紀』『東大寺別当次第』『扶桑略記』『令義解』『類聚国史』『類聚国史考異』『歴代編年集成』『和名類聚抄』などがみられる。江戸中期の学者松下見林(一六三七—一七〇三)が編集した『異称日本伝』なども含まれているが、主に歴史・法制・文学・辞書などに関わる古典が取り上げられている。

漢籍には、以下の文献がみられる。『漢書』『干禄字書』『荊楚歲時記』『広韻』『孝経』『後漢書』『史記』『詩経』『周易』(繫辞伝)『周礼』『春秋左氏伝』『尚書』『戦国策』『荘子』『中庸』『唐書日本伝』『龍龜手鑑』『老子』『論語』『抱朴子』『文選』(李善「上文選表注」)。ここでも儒学の經典、史書、辞書など古典が取り上げられている。

漢籍については、岡本保孝による検討結果に基づくものが少なくないが、「朕重重違二敦請一」の「重」字(19頁8行、別表496)について「清按、重難也、戦国策臣之所重処重留也、註重猶難也、前漢淮南王伝文帝重自功責之註如

淳曰重難也字典、拠此当訓ハハカル」とあるように、小中村自ら検討を加えたものもある。国学者とはいえ、「六国史」の校訂をするためには、和書だけを取上げればよいというものではなく、漢籍を検討することは不可欠なことであった。⁽²⁹⁾

(2) 小中村本文徳実録と明治版「国史大系」との比較

次に、小中村本文徳実録と明治版「国史大系」の本文・標註などを比較してみたい。

明治版「国史大系」は、「故文学博士小中村清矩氏の校本に拠り傍ら秘閣本其他一二の校本を参攷して流布本に校訂標註を加へたり」と凡例にあるとおり、流布本を底本とし、小中村本文徳実録などをもとに校訂し、標註を加えたとされる。したがって、流布本の本文を踏襲する部分が少なくない。⁽³⁰⁾ すなわち、本文の問題点は、小中村本文徳実録同様に残されていることが少なくないのである。明治版「国史大系」本は多数の標註を付して、疑問点を示す形となっている。

まず、明治版「国史大系」の標註・傍注をもとに確認していきたい。

明治版「国史大系」序・巻一・巻二に付された280件の標註のうち、35件は明治版「国史大系」で追加した注である。残る245件のうち240件は小中村本文徳実録の標註・傍注を何らかの形で引き継いだ内容を持つ。

たとえば、小中村本文徳実録が「御冠授奉^奉止^止祈申賜^{此之}」(21頁9行、別表574。新訂増補版は「御冠授奉^奉止^止祈申賜^{此之}」とする)部分の「祈」には「禱 タアルハヒ土日」と傍注がある。これは、丹鶴書院所蔵本や朝田弓槻所蔵本など七

本が「禱」字を用いているとの意味であるが、明治版「国史大系」の本文は「祈」字のままであり、「祈、諸本作禱」と標注がある。小中村本文徳実録の傍注を活用して明治版「国史大系」の標注に改めていることが分かるであろう。標注をそのまま活かす例もあり、「委」（23頁1行、別表630）という字に小中村本文徳実録は「委恐痿」とあるが、明治版「国史大系」も本文は「委」とし、「委、恐痿」と標注が付されている。あるいは、「紀伊寺」（4頁6行、別表73）について、小中村本文徳実録には「紀伊寺、広隆寺縁起云、隆城寺又号紀伊寺奉為孝徳天皇秦河勝弟和賀奉造之」とあり、明治版「国史大系」には「紀伊寺、広隆寺縁起曰隆城寺、又号紀伊寺、奉為孝徳天皇秦河勝弟和賀奉造之、今按其地未詳」とある。文言に相違点はあるものの、小中村本の標注をそのまま利用していることが分かる。先述の「藤原朝臣緒数」（4頁1行、別表58）についても、明治版「国史大系」では「本文」は「緒数」としたうえで、標注に「緒数、紀略作諸数、続後紀十八初同而同書十九及本書下文並作緒数」とあり、小中村本文徳実録をそのまま踏襲している。

一方で、明治版「国史大系」において小中村本文徳実録に付された標注を削除している例もある。小中村本文徳実録では、本文に「脱」字が用いられている部分に（4頁5行、別表68）に「晚 旧」との傍注があるが、明治版「国史大系」では、本文は「脱」とし標注は付されていない。あるいは、小中村本文徳実録の「榎本連浄子」（18頁9行、別表460）の「榎 傍に「榎 旧」と書入れられているが、これも寛文版版本の誤りを記録したものにすぎない。先にとりあげた「第右大臣」（11頁2行、別表267）の例も、明治版「国史大系」で本文は「弟」に改められているが、特に標注は付されていない。明治版「国史大系」編纂の時点で文字を確定し、もはや標注は不要と考えたのであろう。

小中村本文徳実録の考証を採用して、本文を訂正する例もみられる。小中村本文徳実録では本文に「治部」（新訂増補版は「刑部」、4頁9行、別表82）とある部分について「按統後紀十オ四十九ウ七及下文オ十六共作刑部少輔藤原関雄至卷三オ云為治部少輔然則此作治部者非」と『続日本後紀』の記述をもとに、「刑部」を正しいものと考証する。明治版「国史大系」の本文は「刑部」とあり、「刑部、原作治部、抛統後紀卷十卷十九及本書卷三改」と標注を付している。小中村本文徳実録と明治版「国史大系」を比較すると、本文に139件の相違点がみられるが、17件を除いて小中村本文徳実録または明治版「国史大系」のいずれかに、文字の正誤に関連する注があり、小中村本文徳実録の検討成果が活かされている。以上のように、明治版「国史大系」は小中村本文徳実録の標注・傍注をもとに標注を作成する例が少なくないのである。³¹⁾

ここで、逆に小中村本文徳実録に着目すると、序・卷一・卷二には50カ所に標注・傍注があり、内容で分ければ語彙の典拠を示したり内容を考証したりする標注・傍注が24件、異本との校合結果を示した注が355件ある（合計の数が合わないのは双方が記されたものがあるため）。語注など24件のうち、明治版「国史大系」で採用されなかった注は123件あるが、残る91件のうち、小中村本文徳実録の標注の内容を明治版「国史大系」が引き継いでいないものは筆者のみるところでは4件に過ぎない。校合の注についても355件のうち196件は標注に形を改めて明治版「国史大系」に採用された。明治版「国史大系」に採用されなかった157件には、前述のとおり、寛文版本の校合結果を示した明らかな誤りと判断できるものや、逆に信頼できる本との校合により本文を改めたものがみられ、いずれの場合でも本文を確定できたことにより、標注に記録することを略したものと考えられる。小中村本文徳実録の本文、すなわち寛政版本

の本文自体も正しいので、明治版「国史大系」で標注に記録する必要がなかったのである。明らかに不要な注を除けば九割を超える注が小中村本文徳実録の注を踏襲していた。

明治版「国史大系」は標注・校合ともに小中村本文徳実録に拠るところがきわめて大きかったのである。

(3) 新訂増補版「国史大系」について

新訂増補版「国史大系」についても簡単に確認しておこう。

まず、小中村本文徳実録の本文(寛政年間刊行本)と新訂増補版「国史大系」との相違は198件見出せる。しかし、そのうち156件は、新訂増補版「国史大系」の本文につながる内容を含む注が付されている。小中村本文徳実録を作成した時点では、確定することができず、新訂増補版「国史大系」に至って確定できたものと考えてよいだろう。言葉を変えれば、新訂増補版「国史大系」で改訂し得た部分は、確定はできなかったものの、小中村本文徳実録を作成した時点で既に問題点として把握しており、新訂増補版「国史大系」につながりうる内容を見出していたのである。

新訂増補版「国史大系」と明治版「国史大系」との最大の相違は底本の違いである。新訂増補版「国史大系」は、「古写本の白眉たる宮内省図書寮所蔵谷森健男氏旧蔵本」を底本とした。黒板勝美は同本について「伝写諸本の原本といふべき三条西実隆書写本を忠実に抄写したるもの」と評価している²²⁾。黒板は新訂増補版「国史大系」を作成する際、底本を流布本から善本に変更したため、明治版「国史大系」と新訂増補版「国史大系」の本文はもともと異なるものに基づいていた。

このようにみていくならば、新訂増補版「文徳実録」の登場によりテキストが確定され、質の異なる次元のものになったことは間違いがない。小中村による校定作業は、善本の確認が困難であるという時代的な制約を負っており、限界があったことを指摘しなければならぬ。しかし、それまでの流布本の問題点の多くを指摘していたことを考えれば、時代状況のなかでは優れた活動であり、当時の水準を示すに十分な本であったとみることもできるのではなからうか。

おわりに

本稿では、東洋文庫所蔵の小中村本六国史の成立事情について確認したうえで、小中村本文徳実録の書入れの内容について確認をした。明治版「国史大系」の『日本文徳天皇実録』と比較した結果、同書は小中村本文徳実録の校合や注の影響を大きく受けていることが確認できた。

小中村本文徳実録は、岡本保孝・内藤広前・黒川春村等の先学の検討を累積したものに小中村自身の作業を付加したものであり、幕末・明治前期の校訂の水準を示すものであったと思われる。小中村が校訂を進めていた時代は、善本を直接確認することが困難であったことを考えれば、明治版「国史大系」が、それまでの研究成果を累積した小中村本六国史を活用したのは妥当な選択であったと考えてよいだろう。一方で、同本が本文を確定しきれない状況にあったことは間違いない。これは、善本を底本に用いることが困難であるという時代の制約であり、小中村の作業の限界

と捉えることができるであろう。

そうした制約のなか、小中村は先学の成果を取り入れ、語彙の確認のために、和書のみならず漢籍まで典拠の確認をしていた。岡本保孝による補注を踏襲したものが少なくないとはいえ、古代の文献を校訂しようとする考証派の国学者にとっては、漢籍の知識を十分に用いる必要があると認識されていたことも分かる。

本稿で確認してきたように小中村本六国史の校訂内容は、明治版「国史大系」に引き継がれた結果、昭和九年に新訂増補版「国史大系」が刊行されるまでの間、活用されていたといつてよいだろう。このことは、幕末・明治期に行われた考証派の国学者の校合が、昭和前期まで生命を保っていたことを示すものであり、考証派の国学者は、歴史学の基盤となる史料の整備に多大な貢献をした存在であったといえることができる。以上のように考えると、東洋文庫で所蔵する小中村本六国史は日本の史学史を考えるうえで重要な文献のひとつと考えても差支えないだろう。

注

- (1) 『六国史』小中村清矩旧蔵。請求記号…X—5—B—1015
- (2) 小中村による明治期の書入れは若干ある。
- (3) 拙稿「旧版「国史大系」の編纂とその底本—小中村清矩旧蔵『日本書紀』を中心に—」（『近代史料研究』第二二号、二〇一一年）。
- (4) たとえば、永原慶二『20世紀日本の歴史学』（吉川弘文館、二〇〇三年）では久米邦武筆禍事件や「大日本編年史」編纂停止に対する国学者の関与をとりあげ、アカデミズム実証主義歴史学に痛撃を与えたと評価している。

- (5) 国立国会図書館所蔵『文徳実録攷異』（写本、七冊合二冊）。同書は『文徳実録校本』三冊（巻一～三）、『文徳実録校本攷異』三冊（巻一～三）。小中村清矩自筆。本稿ではそれぞれ「小中村校定本」「小中村攷異」、「文徳録二」「文徳二攷異存疑」「文徳攷本存疑」「改異」を合綴した二冊（木村正辞自筆）からなる。拙稿「文徳実録攷異 小中村清矩と木村正辞をめぐって」（『国立国会図書館月報』二〇一三年四月号）参照。
- (6) 拙稿「紀伊藩古学館時代の小中村清矩―幕末期における考証派国学の一側面―」（『近代史料研究』第一三号、二〇一三年）参照。
- (7) 小中村清矩『国史学の栞』（勉強堂書店 一九〇〇年）一四頁。
- (8) 『続日本紀』が明暦三年（一六五七年）、『続日本後紀』が寛文八年（一六六八年）、『日本文徳天皇実録』が寛文九年（一六六九年）、『日本三代実録』が寛文十三年（一六七三年）に刊行された。
- (9) 斎藤政雄『和学講談所御用留の研究』（国書刊行会、一九九八年）二二六頁参照。
- (10) 同右三八～四〇頁。なお『元暦万葉集』なども開版している。
- (11) 文久二年の可能性もあるが、文久二年五月以降『日本文徳天皇実録』の校正を集中的に進めていることから、文久元年の可能性が高いものと考えている。前掲(6) 拙稿「紀伊藩古学館と小中村清矩―幕末期考証派国学の一側面―」参照。
- (12) 前掲注(5) 小中村攷異所収。
- (13) 同右。
- (14) 同右。
- (15) 前掲注(5) 小中村攷異卷一所収「文徳天皇実録校本攷異例言」末の朱書入れによる。
- (16) 前掲注(5) 小中村攷異見返しに貼付された紙の上書による。紙は本書を収めていた包紙または袋と思われる。なお、前掲注(15)の朱書入れによれば、両名のほか三井氏も担当者にあがっている。

- (17) 前掲注(5) 小中村攷異所収。
- (18) 同右。
- (19) 同右。
- (20) 攷異見返ししの貼紙による。
- (21) 前掲注(5) 拙稿「文徳実録攷異 小中村清矩と木村正辞をめぐって」、拙稿「明治初年における歴史考証の位置―小中村清矩・木村正辞と「六国史」校正―」(『史境』六十九号、二〇一五年) 参照。
- (22) 前掲注(7) 『国史学の栞』二二頁。
- (23) 前掲注(3) 「旧版『国史大系』の編纂とその底本―小中村清矩旧蔵『日本書紀』を中心に―」で紹介した書誌に誤りがありました。お詫びして訂正します。
- (24) なお、小中村攷異の内容は小中村本文徳実録には反映されていないが、別表に示したとおり、小中村攷異に対する木村正辞の修正は微に入り細を穿つ。作成にあたっては、木村正辞が小中村の見解を正している。たとえば、「正位徂落之夕」の「徂落」(巻一・五頁二行) という言葉については、小中村本文徳実録には「一本徂／書舜典」と注が付されている。小中村攷異においては「徂大本作徂」と小中村は記すのであるが、木村は「正辞曰、書堯典云、帝乃徂落孟子万章篇、作放勳乃徂落漢書楊雄伝注云、徂落死也、則知徂徂古通用、玉篇亦云、徂在乎切、死也、今作徂」と追記した。また、「文徳攷異存疑」においては、小中村攷異の文章そのものへの修正も行っている。木村は文字・音韻に通じた人物であり、校訂の水準を上げようとした小中村の意図を感じることができる。
- (25) 小中村本文徳実録巻一見返しによる。なお、ここに登場しない記号を用いる例もある。
- (26) 小中村校定本・小中村攷異とも巻三まで作成されているが、巻三は煩瑣を避けて省略した。木村の「文徳二攷異存疑」が残されていることから、巻二は残した。

(27) 筆者の判断及び集計によるため、数え方による誤差があるものと思われる。以下同。

(28) ただし、小中村校定本作成時の判断である。小中村攷異を確認すると、補筆があり判断を変更している事例などもみられる。

(29) 時期的には早いものの、小中村の日記を確認すると、嘉永二年（一八五五）七月二十七日から八月二十一日にかけて『漢書』を通読している例などもみられる。拙編『小中村清矩日記』（汲古書院、二〇一〇年、五七頁）参照。

(30) 明治版「国史大系」本『国史大系 卷三』（日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録）（経済雑誌社、一九〇一年）凡例一頁。

(31) 「玉皇寺」（巻一・四頁八行。別表76）について小中村本文徳実録が「玉皇寺、卷十^上玉皇寺火（俗名烏戸寺）内蔵式造五月五日昌蒲佩之条亦載此寺」とあるのに対して明治版「国史大系」が「俗名烏戸寺」とするように、小中村本文徳実録から明治版「国史大系」に移す際に一部の知見を削除したのも見られる。また、小中村本文徳実録と明治版「国史大系」との双方に注または書入れがあり、内容が全く異なるものもみられる。たとえば、「来定寺」（巻一・四頁九行。別表79）について小中村本文徳実録では「来定寺、歴代編年集成^宋院^朱天曆六年八月十五日崩、廿日葬来定寺、扶桑略記同」とあり、明治版「国史大系」では「史徴曰在紀伊郡今亡蓋東福寺辺」とあるような類である。

(32) 新訂増補版「国史大系」本『日本文徳天皇実録』（吉川弘文館、一九三四年）凡例一〜二頁。

（国立国会図書館司書）

(別表) 新編増補版「国史大系」・明治版「国史大系」・小中村本文徳実録・小中村校定本・小中村攷異比較表

凡例

- ・本表は、新訂増補版「国史大系」、明治版「国史大系」、小中村本文徳実録、小中村校定本、小中村攷異の注と主要な異同を比較したものである。
- ・「標」・「傍注」とも、文章で説明した注はすべてとりあげた。
- ・「而」に「以ル本草山」とあるような校合結果の書入れば、異体字等(新田字、俗字などを含む)、顛字、欠字についてのみ記されたものを除き、とりあげた。省略した主な異体字等は以下のとおり。ただし、異体字等であっても、同時に文章で説明した注も付されている場合などはとりあげた。
- 宜・宜、等・等、苧・須、漬・称、襪・履、備・備、筋・筋、即・即、属・属、宝・宝、万・萬、乾・乾、靴・靴、灯・燈、尔・爾、爾・爾、隨・隨、无・无、類・類、得・得、号・號、靴・靴、休・休、役・役、段など
- ・傍訓や訓点に関わる書入れば省略した。
- ・本文の干支部分の傍に記された日付、「類聚国史」掲載巻・頁・干支などは省略した。
- ・頁数・行数は新訂増補版「国史大系」のみ示した。複製行にわたる場合、最初の行を示した。
- ・小中村本文徳実録の校合に関する注にみられる略記号は、第一冊見返しによれば以下のとおり記されている。
 - 「一白雲本 白 一白雲一本 白イ 一類史 ル 一紀略 キ」
 - 「一タ 丹鶴書院所藏古写本 一テ 朝田弓樹所藏古本山崎知雄非所校」
 - 「一ハ 堀氏蔵又一写本 一ナ 内藤氏又以一本所旧 一旧 田村本」
 - 「一上 堀氏蔵又一写本 此ハ諸本トサシモ異ナル事モ見エネハマツ卷三マテ校シテサシ置ヌ、按ニ此本朝田本ト同種トオホユ 一日 昌平坂学問所古鈔本」
 - 「一山黒川春村蔵山岡明阿弥所校 旧刻本 一ホ 同本中春村所校細井貞雄蔵古写本 一ホ 細井本中所校水戸本 此ハ初ノホトイサ、カハカリ也」
- ・小字・制書は〔 〕内に示した。小中村本文徳実録にもともと印刷されている傍注は《 》内に示した。
- ・当該の本に該当する文字が無い場合「―」を入れた。
- ・文字は、なるべく底本に使用されている字形を用いた。木版の書体の誤りや筆記によるくずし字は、注に関係しない場合などは適宜に現在通用の文字に改めた。なお、小中村自身は新田字を区別せずに用いているもの(例：当と當、捷と捷など)が少なくない。
- ・対象となる語や字を比較しにくい場合は便宜的に太字で示した。
- ・小中村攷異に修正・追記があった場合は、見消で修正前の字を示し「」内に修正後の文字を記入した。小中村以外の修正であって修正者が推定できる場合は文末に「*」(木村正節)、「山沢」(山沢興輔)、「渡辺」(渡辺魯輔)と示した。木村正節筆の「文徳攷異二存疑」は【存疑】としてとりあげた。「文徳録二」【文徳改本存疑】「攷異」は表末に示した。

| | | 新訂増補版「国史大系」 | | | | 明治版「国史大系」 | | | | 序文 | | | | | |
|----|----|-------------|--------------------|------------------------------|--|-----------|---|--------------------|----------------|------|-------|--|-------|--|--|
| 項番 | 頁行 | | 本文 | 頭注 | 明治版「国史大系」 | | 小中村本文徳実録 | | 小中村校定本 | | 小中村攷異 | | 小中村攷異 | | |
| | 頁 | 行 | | | 本文 | 頭注 | 本文 | 注 | 本文 | 攷異欄目 | 攷異本文 | | | | |
| 1 | 1 | 1 | 本文 日本文徳 天皇實録 | | 本文 日本文徳 天皇實録 | | 本文 日本文徳 天皇實録 卷七載之 | 本文 日本文徳 天皇實録 | | | | | | | |
| 2 | 1 | 2 | 因 | | 不用、丹本細木昌本類 史一四七作不因 | 用 | 因（少史百四十七夕土 糸田） | 用 | | | | | | | |
| 3 | 1 | 2 | 而 | 而、淀本山本及類史 〔一四七〕菅家文章作 以 | 而、類史菅家文章七及 山本作以 | 而 | 以（少文章山） | 而 | 因「用」天 度而叙憲章 | | | | | | |
| 4 | 1 | 2 | 憲章 | | 憲章 | 憲章 | 憲章中册三十章 | 憲章 | | | | | | | |
| 5 | 1 | 2 | 姫 | | 姫 | 姫 | 猶言閑漢 | 姫 | | | | | | | |
| 6 | 1 | 3 | 掌 | | 堂 | 掌 | 折（土田田） | 掌 | | | | | | | |
| 7 | 1 | 3 | 析 | | 析 | 析 | 孝經 | 析 | | | | | | | |
| 8 | 1 | 4 | 考治 | | 考治 | 考治 | 孝經 李善上文選表注 | 考治 | | | | | | | |
| 9 | 1 | 4 | 文思 | | 文思 | 文思 | 文思、出于孝經 上文選表注 | 文思 | | | | | | | |
| 10 | 1 | 5 | 言動 | | 言動 | 言動 | 言動（水） | 言動 | | | | | | | |
| 11 | 1 | 5 | 二 三 | 二、恐當據類史文章作 三 | 從二位、類史文章作從 三位此下水本有兼字清 矩云、據補任貞觀十三 年基經從三位大納言年 名參議正四位下也、按 三年恐十五年歟然三代 實録兩年共不載、選修 | 二 | 三（少文章）／清矩云、 櫻公輔任貞觀十三年 基經公從三位大納言年 名參議正四位下也、按 十三年恐十五年誤乎、 然三代実録兩年下共不 載、選修之事難定者也、 | 二 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|------------|--|------|---|-------|---|--|--|
| | | | | 之事難定也類史恐非 | | 類聚國史作從三位恐非 | | 官坊大夫臣 南淵朝臣年 名 | 其改正、而諸本及類史文 草等、皆如本文、仍「故 *」不輕改、從難後後考、 又按捷例當作從三位兼行 左近衛大將一又「[中御言] 從三位兼行民部卿等、今 不輕改「奉宮大夫」 | |
| 12 | 1 | 5 | 兼 本補 | 兼、據原本傍朱書印一 本補 | — | 兼〔次〕 | 兼〔追記〕 | | | |
| 13 | 1 | 5 | 行 類史補 | 行、據原本泥本印本及 類史補 | 行 | 〔日ナシ〕 | 行 | | | |
| 14 | 1 | 6 | 兼 | | 兼 | 兼 | 兼 | | | |
| 15 | 1 | 6 | 南淵朝臣 | | 南淵朝臣 | 南淵朝臣 | 南淵朝臣 | 〔南淵朝臣 *〕 | 〔淵類史作測、正辭按淵 即彌字之省違者、龍庵手 鑑云測正測、俗其字形近 似*〕 | |
| 16 | 1 | 6 | 行 據原本補 | 行、據原本補 | — | 下左、此間恐脫行字 | 行 | 正四位下行 左大辨 | 原脫行字、捷例補 | |
| 17 | 1 | 6 | 行〔最終 字〕 | | 行 | | 行 | 從五位下行 大外記 | 原脫行字、捷山細及類史 補 | |
| 18 | 1 | 7 | 少 | | 少 | 小〔印文田〕 | 少 | | | |
| 19 | 1 | 7 | 良香 | 良香、恐當據泥本印本 及類史文章作言道、按 言道改名良香在貞觀十 四年 | 言道 | 言道、一本作良香、言 道改名良香在貞觀十四 年五月七日、文章亦作 言道、一本非也 | 言道 | 良香〔一本タレハノ土 田〕/按良香元名言道、 貞觀十四年五月七日奏 請改之、見三代實錄、 當時未改名、檢文章作 言道一本非也 | 言道 都宿物言道 | 言道本末是木大本作良香、 好谷望之云、按良香元名 言道、貞觀十四年五月七 日奏請改之、見三代實錄、 當時未改名、檢文章作言 道、作良香者非也、「魯 云元當作善、被翁偶誤耳 〔兼迎〕」 |
| 20 | 1 | 9 | 武子文孫 | | 武子文孫 | 武子文孫、出于尚書立 政 | 武子文孫 | 武子文孫、尚書立政、 繼自今文字文孫、其勿 | 武子文孫 | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|----|------------|-------------------------|----|----------------------------------|----------------------|------------|---|------------|----------------------|--|--|--|
| 29 | 1 | 12 | 忘 | | | 恐 | 恐、原作忘、據一本改、塙本、細本昌本作忌 | 忘 | 忌 (上六日) / 昌本忘 皆作忌蓋忘古作忌 / 春 海云忘是忌之誤 | 忘 | 「忘彼命之 早頌」(不 明) | 「忘細本作忌、山岡淺明 云今按當作恐(不明)」 | | |
| 30 | 1 | 12 | 早頌 | | | 早頌 | 早頌、一本作早肆 | 早頌 | | 早頌 | | 亡原作已、據類史及文章 改、「按皇國古書往々如 此作、蓋亡俗作已、因訛 為已耳*」 | | |
| 31 | 1 | 12 | 亡 | 亡、原作已、據水本印 一本及類史文章改 | 已 | 已去、水本類史文章作 亡去 | 已去、水本類史文章作 亡去 | 已 | 亡 (少文水) | 已 | 亡去忽焉 | | | |
| 32 | 1 | 13 | 鞅掌 | | | 鞅掌 | 鞅掌、出于小雅北山篇 | 鞅掌 | 小雅北山篇王事鞅掌 慮 (少文白業) / 慮轉 音利与久清渡傳不疑傳、 每行縣錄因從靈師古曰 錄因今云慮因本錄与之 去者耳、近俗不曉其意 訛為思慮之慮失其源矣、 愚按慮 (平) 呂 (上) 慮 (去) 錄 (入) 四字 一音ノ轉入声借音ニ觸 アル所以也 (音微不戻、 此ニ字慮慮通ヌルヲラ 知ハシ) | 鞅掌 | | | | |
| 33 | 1 | 14 | 都慮 | 慮、原本傍朱書印一本 白本及類史文章作慮 | 都慮 | 都慮、白本類史文章作 都慮、般若經音義云都 慮猶總也 | 都慮 | 都慮 | | 都慮 | 都慮「慮*」 九年 | 「慮」「原作*」慮、「據 *」日本及類史文章作感 「改*」 | | |
| 34 | 1 | 14 | 勒 | | | 勒 | | 勒 | 以 | 勒 | | | | |
| 35 | 1 | 14 | 成 | | | 成 | 勒成、水本作以為 | 成 | 為 (水) | 成 | | | | |
| 36 | 1 | 14 | 哀 | | | 哀 | | 哀 | 哀 (田) | 哀 | | | | |
| 37 | 1 | 14 | 無 | | | 无 | | 无 | 無 | 无 | | | | |
| 38 | 1 | 14 | 庶機 | | | 庶機 | 庶機、一本作度機 | 庶機 | | 庶機 | | | | |
| 39 | 1 | 15 | 雖百世可 知也 | | | 雖百世可 知也 | | 雖百世可 知也 | 論語為致 | 雖百世可 知也 | | | | |

| | | | | | | | | |
|----|---|----|--------------|---|---|------------------------|-----------|---|
| 40 | 1 | 15 | 龍門 | 龍門、謂司馬遷、史記大史公自序遷生龍門 | 龍門、謂司馬遷史記大史公自序傳、遷生龍門 | 龍門 | | |
| 41 | 1 | 15 | 虎乳 | 虎乳、出于前漢曹班固自叙 | 虎 (旧) | 虎乳 | | 「欽定作」缺、「禮」文章誤「作欽恐非」／「英案欽文从山出沢説作缺為是論語吾猶及史之闕文缺即闕也 (不明)』 |
| 42 | 1 | 15 | 缺文 | 缺文、文章作欽文、恐是 | 欽 (文) | 缺文 | 謬誤「缺」文於聖訓 | |
| 43 | 2 | 2 | 三年 | 二年、丹本楠本細本昌本類史作三年、保孝按、檢三代實錄不載進呈之事、釋紀爲三年拵芥抄爲二年、未知孰是 | 三 (ルク土ホ田) / 保孝按、釋日本紀爲元慶三年、拵芥抄爲二年、未詳、孰是檢三代實錄不載進呈之事 | 三年 | 元慶三年十一月 | 三年原作二年、十一月作十二月、搜水本「細」及類史改、按東釋日本紀爲元慶三年十一月、拵芥抄爲二年十二月、檢三代實錄不載進呈之事、雖不知孰是、姑從類史釋紀 |
| 44 | 2 | 2 | 十一月 | 十二月、同上諸本及類史作十一月 | 一 (ルク土ホ田) | 十一月 | | |
| 45 | 2 | 4 | — | — | 一本有此二行 (ル史百四七クハホ) | — | | |
| 46 | 2 | 4 | 參議刑部 | 參議以下四十一字、丹本類本細本類史與此同、舊刻本无 | 參議刑部 | 參議 (云々) 菅原朝臣是善從五位下朝臣良臣 | 參議刑部 | 原二行小書開中搜水本白本「細」及類史改 |
| | | | 卿正四位 | | 卿正四位 | | | |
| | | | 下兼行勳 | | 下兼行勳 | | | |
| | | | 解由長官 | | 解由長官 | | | |
| | | | 近江守菅原朝臣是善從五位 | | | | | |
| | | | 下行大外記臣島田朝臣良臣 | | | | | |

| 項番 | | 新訂増補版「国史大系」 | | 明治版「国史大系」 | | 小中村本文徳実録 | | 小中村校定本 | | 小中村攷異 | |
|----|---|-------------|---------------|--------------------|---------------------------------|---------------|--|---------------|---------------|---------------------------|--|
| 頁 | 行 | 本文 | 頭注 | 本文 | 頭注 | 本文 | 注 | 本文 | 攷異標目 | 攷異本文 | |
| 47 | 3 | 1 | 文徳 | 文徳 | | 文徳 | 文徳、尚書、大馬廐帝乃應敏文徳、詩大雅江漢篇矢其文徳治此四國、漢刑法志文徳者帝王之利器威武者文徳之補助也 | 文徳 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 48 | 3 | 2 | 右大臣藤原朝臣基經等奉勅撰 | 右大臣藤原朝臣基經等奉勅撰 | | 右大臣藤原朝臣基經等奉勅撰 | | 右大臣藤原朝臣基經等奉勅撰 | 右大臣藤原朝臣基經等奉勅撰 | 原為大書、今從刊本續日本紀、據日本後紀之例、為小書 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 49 | 3 | 3 | 藤原氏 | 藤原氏 卷廿 | 藤原氏、傳見三代實錄 | 藤原氏 | 藤原氏、諱順子傳見三代美祿卷廿〔七右〕／母夫人從三位藤原順子畧 | 藤原氏 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 50 | 3 | 3 | 承和九年 | 承和九年 | 承和九年、見續後紀卷十二 | 承和九年 | 續後紀卷十二〔十九右〕 | 承和九年 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 51 | 3 | 4 | 休麗 倚 | 休麗 倚 | 倚麗、諸本紀畧作休麗 | 倚麗 | 休〔クアハヒ畧土赤日〕 | 休麗 | 休麗 | 休原作倚、拠水本白本尾本明本「細」旧校及日本紀畧改 | |
| | | | | | | | | | | | |
| 52 | 3 | 5 | 率 | 卒 | | 率 | 樂〔日ハ日〕 | 率 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 53 | 3 | 5 | 東宮雅院 | 東宮雅院 管家文章、田氏家集等 | 雅院、見古今集及拾芥抄又出文章秀麗御製詩、管家文章、田氏家集等 | 東宮雅院 | 東宮雅院、古今集東宮雅院にて院の花のミカハ、水にちりてなかれけるをミテ、拾芥抄 | 東宮雅院 | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----|---|----|------|--------------------------------------|------|-----------------------------|------|--|------|--------|---|
| 78 | 4 | 9 | 貞 | 貞、原作眞、據下文及印一本改 | 貞 | 貞學、原作眞學、據一本及下文改 | 貞 | 貞／清按真字下文〔廿一ウ〕卷八〔十一ウ〕卷十〔三ウ〕同〔十才〕作眞學 | 貞 | 丹輝眞人員 | 貞原作眞、據下文五月甲午條、齊衡三年八月戊戌條、天安二年正月丙辰條、同年三月庚辰條等改 |
| 79 | 4 | 9 | 來定寺 | | 來定寺 | 來定寺、史微曰在紀伊郡今仁蓋東福寺邊 | 來定寺 | 來定寺、歷代編年集成云〔朱雀院〕天曆六年八月十五日朔、廿日葬來定寺、扶桑略記同 | 來定寺 | | |
| 80 | 4 | 9 | 行 | | — | | — | | — | | |
| 81 | 4 | 9 | 親正 | | 親正 | 親正、正原作玉、據丹本朝本楠本具未改 | 親王 | 正〔ウア土田〕／玉當作正 | 親正 | 正親正 | 下正原作玉、據水本朝本改 |
| 82 | 4 | 9 | 刑部 | 刑、原作治、據下文仁壽元年二月紀及原本傍朱書印一本續後紀嘉祥二年二月紀改 | 刑部 | 刑部、原作治部、據續後紀卷十卷十九及本書卷三改 | 治部 | 按統後紀十〔十四才〕十九〔七ウ〕及下文〔十六才〕共作刑部少輔藤原國難至卷三〔三才〕云為治部少輔、然即此作治部者非 | 刑部 | 「刑部少輔」 | 「刑原作治摺旧校改、按統後紀十、十九、及本文下文共作刑部少輔藤原國難、至卷三、云為治部少輔、然則此作治部者非」 |
| 83 | 4 | 10 | 拜志寺 | | 拜志寺 | 拜志寺、在紀伊郡今亡出于玄蕃式 | 拜志寺 | 拜志寺、玄蕃式凡近郡諸寺東拜志以北西石作以北停預講師僧綱檢察 | 拜志寺 | | |
| 84 | 4 | 10 | 行 | | — | 從三位、此下恐懸行字 | — | | — | | |
| 85 | 4 | 11 | 堅 | | 堅 | | 堅 | 堅〔日下同、IIA八上〕 | 堅 | | |
| 86 | 4 | 11 | 深草寺 | | 深草寺 | 深草寺、在紀伊郡今不詳 | 深草寺 | | 深草寺 | | |
| 87 | 4 | 12 | 堅 | | 堅 | | 堅 | 堅〔IIA八上〕 | 堅 | | |
| 88 | 4 | 12 | 眞木尾寺 | | 眞木尾寺 | 眞木尾寺、今亡、按字治郡朝山池尾村邊有櫛尾山、古置寺歟 | 眞木尾寺 | 眞木尾寺、初例抄云、仁海号小野僧正元果曾都弟子、櫛尾寺上座平達子 | 眞木尾寺 | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|------------|----------------------------|--|------------|--|------------|----|------------|--|---|
| 89 | 4 | 12 | 清風 | | 清風、或云非加賀介、此恐誤 | 清風 | | 清風 | | | | |
| 90 | 4 | 13 | 豎 | | | 豎 | 豎(田) | 清風 | 豎 | | | |
| 91 | 4 | 13 | 繪尾寺 | 繪一木作母、 繪、原本傍朱書印一本 作母 | 繪尾寺、繪一本作母、 以呂波字類抄云繪尾寺 法禪寺是也實慈僧都居 住所也可考 | 繪尾寺 | 繪尾寺、以呂波字類抄 云、繪尾寺法禪寺是也、 實慈僧都居住所也 | 繪尾寺 | | | | |
| 92 | 4 | 13 | 雷雨 | | 雷雨、類史卅六作雨雷 | 雷雨 | | 雷雨 | 雷雨 | | | |
| 93 | 4 | 13 | 倍 | | | 倍 | | 倍 | 倍 | | | |
| 94 | 4 | 14 | 視 | 視、紀略作觀、類史 〔三六〕與此同 | 察眼、紀略作察觀 | 視 | | 視 | 視 | | | |
| 95 | 4 | 15 | 良岑朝臣 宗貞 | | 宗貞、任僧正住花山寺、 號通照、釋家官班紀云、 台徒僧正始于通照、 (今昔物語、大和物語、 慈覺傳、通照集、續往 生傳、集源抄、參考) | 良岑朝臣 宗貞 | 良岑朝臣宗貞、任僧正 住花山寺另通照釋家官 班記云、台徒僧正始于 通照 | 良岑朝臣 宗貞 | | | | |
| 96 | 4 | 15 | 寵 | | | 寵 | 寵(田田) | 寵 | | | | |
| 97 | 4 | 16 | 己酉 | | 己酉朔己酉 | 己酉 | | 己酉 | | | | |
| 98 | 4 | 16 | 匠 | | 大匠、原作大造、據諸 本改 | 造 | 近(田)／匠(タアハ イヒ上一本田) | 匠 | | 資大匠以脚 鈞 | | |
| 99 | 5 | 1 | 九服 | | | 九服 | 周礼夏官職方氏 | 九服 | | | | |
| 100 | 5 | 1 | 御徑 | 御徑、原作廻道、今從 印一本 | 御徑、原作廻道、據一 本改(楊雄甘泉賦) | 廻道 | | 廻道 | | 「廻道」 | | 「旧校作御徑」 |
| 101 | 5 | 1 | 權塞 | | 權塞、宣作懸塞 | 權塞 | | 權塞 | | | | |
| 102 | 5 | 2 | 祖 | 祖、原作祖、據尚書舜 典改、 | 祖落、原作祖落、據一 本及尚書舜典改 | 祖 | 祖(一本等)／書舜典 | 祖 | | 正位祖落之 夕 | | 祖大本作祖、「正辭曰、 書舜典云、帝乃祖落孟子 萬章篇、作故勳乃祖落、 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|--------------------|----------|--------------------|--------------------|-------------------------------------|-----------|--------------------|----------------------|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | 漢書楊雄傳注云、徂落死也、則知徂徂古通用、玉篇亦云、徂在字切、死也、今作徂*」 | |
| 103 | 5 | 2 | 百王 | 百王、此上恐脫字 | 百王 | 百王、此上恐脫字 | 百王 | | | | | | |
| 104 | 5 | 3 | 括 | | 括 | 括、原作括、據精古本昌本改、舊刻同 | 括 (旧刻入土白) | 括 (旧刻入土白) | 括 | 道括乾坤 | | 括原作括、據諸本及舊刻本改、蓋新刻本卻闕之誤也 | |
| 105 | 5 | 3 | 鐘 | | 鐘 | | 鐘 (旧土白) | | 鐘 | | | | |
| 106 | 5 | 5 | 因心 | | 因心 | 因心、出孝經序、類史作因心 | 孝經序／大雅皇矣 | | 因心 | | | | |
| 107 | 5 | 5 | 寢門問豎 | 豎、即豎字鴛體 | 寢門問豎 | 寢門問豎、出禮記 | 禮記文王世子／豎 (旧入土白) | | 寢門問豎 | | | | |
| 108 | 5 | 5 | 愛敬 | | 愛敬 | | 字典、虞敬也、魯語少采夕月与太史司職糾慶天刑 | | 愛敬 | | | | |
| 109 | 5 | 5 | 馳道申虞 | | 馳道申虞 | 馳道申虞、虞一本作虞、此事見漢成帝紀 | 馳道申虞、漢成帝紀云帝為太子云々、初居桂宮上嘗急召太子出龍樓門不敢馳道 | | 馳道申虞 | | | | |
| 110 | 5 | 5 | 溫恭 | | 溫恭 | | 舜典——允恭 | | 溫恭 | | | | |
| 111 | 5 | 6 | 屬茲時來 居南面之 尊高 | | 屬茲時來 居南面之 尊高 | | | | 屬茲時來 居南面之 尊高 | 「屬茲時來 居南面之尊 高」 | | 「漢明云、來字恐有譌誤、今按疑當作盛卬書相似轉訛、又按、尊上恐脫至字高字屬下句」 | |
| 112 | 5 | 6 | 大寶 | | 大寶 | 大寶 (易繫辭傳下) | 易繫辭下聖人之大宝曰位 | | 大宝 | | | | |
| 113 | 5 | 6 | 回極 | | 回極 | 回極 (詩小雅) | 詩小雅蓼莪 | | 回極 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|-----|---------------------------------|-----|-------------------|----------|--|-----|----------|--|--|
| 114 | 5 | 7 | 開々 | | 開々 | 開々出于文選、或曰當作頭々 | 開頭 | 開々(開)／開頭公雅釋開頭々印々君之總也／任防勸進兼音神頭々深所未達(文選) | 開頭 | | | |
| 115 | 5 | 8 | 例 | | 例 | | 例 | 列(田) | 例 | | | |
| 116 | 5 | 8 | 既葬 | 既葬、原作一一、據廣本傍朱書谷一本印一本補、廣本傍朱書又作殯歟 | 既葬 | 既葬、據一本補、或作葬後、葬一作殯 | — | ク本二字欠了本同、日土同 | 既葬 | 既葬即位二也 | 原无既葬二字、而空一字、本本朝本空二字、旧校云、一有既葬二字、「今從之補」／「春秋釋例(不明)】 | |
| 117 | 5 | 9 | 忘 | | 忘 | | 忘 | 忘(田田) | 忘 | | | |
| 118 | 5 | 9 | 七朝 | | 七朝 | | 七朝 | 曲札 | 七朝 | | | |
| 119 | 5 | 9 | 定 | 定、印一本作足 | 定 | | 定(足一本) | | 定 | 「下定乃民之望」 | 「定田校作足」 | |
| 120 | 5 | 10 | 控歟 | | 控歟 | 控歟、原作愷疑、據廣本改 | 愷疑(控一本)歟 | 〔クアハ土日〕〔控歟〕下)／控歟、任防勸進變其有愚誠、不任控歟 | 控歟 | 控歟之至 | 控歟原作愷疑、據水本白本朝本日校改、按文選任防勸進箋、實有愚誠、不任控歟 | |
| 121 | 5 | 10 | 曰 | 曰、印一本及紀略作旨 | 曰 | 今日、紀略作令旨 | 曰 | 旨(密) | 曰 | | | |
| 122 | 5 | 10 | 源朝臣 | | 源朝臣 | | 源朝臣 | 統後紀十八(二右)与此同 | 源朝臣 | | | |
| 123 | 5 | 11 | 愷 | | 愷 | | 愷 | 愷(ク)愷(ヒハ)愷(日田刻) | 愷 | 源朝臣愷 | 愷水本作愷、尾本作愷、舊刻本作愷、續後紀嘉祥元年正月戊辰條、与本文同 | |
| 124 | 5 | 14 | 帥 | | 帥 | | 帥 | 輔(ハ日田) | 帥 | | | |
| 125 | 5 | 15 | 薨 | | 薨 | | 薨 | 葬(田) | 薨 | | | |
| 126 | 5 | 16 | 幼 | | 幼 | | 幼 | 幻(田) | 幼 | | | |
| 127 | 5 | 16 | 兵部卿 | | 兵部卿 | 卿、據諸本改 | 兵部 | 卿(クアヒハイ土山日) | 兵部卿 | 拜兵部卿 | 原脱卿字、據水本尾本朝本「山細」旧校補 | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|-------------|---------------------|---------------------|-------------|---------------------------------|-------------|---------------|---|
| 148 | 6 | 15 | 輸 | | 輸、原作論、搥水本筋 本改 | 論 | 輸（夕旧刻入十） | 輸 | 輸中臧 | 輸原作論、搥水本白本舊 刻本改 |
| 149 | 6 | 15 | 中 | | 中、丹本昌本作申 本改 | 中 | 申（夕旧） | 中 | | |
| 150 | 6 | 15 | 權奪 | | 權奪、文選齊範陵文宣 王行狀 | 權奪 | 權奪、文選齊範陵文宣 王行狀 | 權奪 | | |
| 151 | 6 | 15 | 内 | 内、紀略无 | 内 | 内 | テウ（キ） | 内 | 五畿内七道 諸國 | 紀略无内字 |
| 152 | 6 | 16 | 修 | 修、搥源本傍朱書印一 本及紀略補 | — | 修（キ） | 修（キ） | 修 | 修二七日御 齋會 | 原在修字、搥紀略及旧校 補 |
| 153 | 6 | 16 | 齋 | | 齋 | 齋 | 齊（旧ハ旧） | 齋 | | |
| 154 | 6 | 16 | 豎 | | 豎 | 豎 | 豎（旧ハ旧） | 豎 | | |
| 155 | 6 | 16 | 等一兩人 | | 等一兩人 | 等一兩人 | | 等一兩人 | | |
| 156 | 7 | 1 | 公除 | 公、原作出、搥紀略改 | 公除 | 公除 | | 公除 | | |
| 157 | 7 | 1 | 官 | | 官 | 官 | 官（諸本日旧） | 官 | | |
| 158 | 7 | 1 | 大藏於朱 雀門前 | | 大藏於朱 雀門前 | 大藏於朱 雀門前 | | 大藏於朱 雀門前 | 「大藏於朱 雀門前」 | 「大原作太、搥旧刻本改」 |
| 159 | 7 | 1 | 魚虎鳥 | | 魚馬鳥 | 魚馬鳥 | 魚馬鳥 | 魚馬鳥 | 魚馬鳥 | 馬字諸本皆同、「干録字 書云、馬虎上通下正、正 辭曰、刻本傍名抄馬條引 此、按魚虎之名、亦見張 揖注上林賦、鸞、及王 （一ツ）篇、鸞字注*」 |
| 160 | 7 | 2 | 御 | 御、搥源本印本及紀略 補 | 御 | 御 | | 御 | | 原脱源字、搥水本白本朝 本尾本「細」旧校及紀略 補、按搥例當作中納言從 |
| 161 | 7 | 2 | 從三位源 | 從三位、搥例補 | 從三位、搥例補、源據 諸本紀略補 | — | 源（キタアノハヒ日土 ホ）／搥例當作從三位 源朝臣 | — | 源朝臣定 | |

| | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---------|---------|---------|------------------------------|---------|-----------------|--|
| | | | | | | | | | 三位源朝臣定 |
| 162 | 7 | 3 | 七ヶ佛寺 | | 七箇佛寺 | ケ〔旧土〕(箇) / ナシ〔キ〕(佛) | 七箇佛寺 | 七箇寺 | 原作七箇佛寺、搥記畧及上文乙巳條則佛字 |
| 163 | 7 | 3 | 齋 | | 齋 | 齊〔旧ハ日〕 | 齋 | | |
| 164 | 7 | 4 | 傳燈滿位 | | 傳灯滿位 | 燈〔クアハ土日〕 | 傳灯滿位 | 傳灯滿位 | 灯水本朝本作燈、「正籍曰灯燈音近義通、故借用之、蓋是青蒸之通也、字彙正字通並云、灯俗燈字未是*」 |
| 165 | 7 | 5 | 寺 | 寺 | — | 寺〔クアハハヒ土本日〕 | 寺 | 國分二寺 本朝本「細」補 | 原脱寺字、搥水本白木尾本朝本「細」補 |
| 166 | 7 | 6 | 庭 | 庭 | 庭 | 庭〔クアハ土日〕 | 庭 | 天皇朝延 | 延水本白木朝本作庭 |
| 167 | 7 | 7 | 屢勸請〔天〕 | 屢勸請〔天〕 | 屢勸請〔天〕 | 屢勸請〔天〕 | 屢勸請〔天〕 | 屢勸請〔天〕 | 按天字下恐脱支字、「黒河春村云天恐夫」 |
| 168 | 7 | 7 | 不堪〔流〕狀 | 不堪〔流〕狀 | 不堪〔流〕狀 | 不堪〔流〕狀 | 不堪〔流〕狀 | 不堪〔流〕狀 | 按狀字下恐脱乎字 |
| 169 | 7 | 8 | 懼 | 懼 | 懼 | 懼〔旧刻〕 / 按懼字彙与撰同史記項羽紀云、一府中皆懼伏 | 懼 | 懼〔懼*〕 辭〔止毛〕 | 毋栗作懼、搥旧刻本味「作懼義通*」 |
| 170 | 7 | 8 | 從〔已止〕不得 | 從〔已止〕不得 | 從〔已止〕不得 | | 從〔已止〕不得 | 從〔已止〕不得 | 按已止字下恐脱乎字 |
| 171 | 7 | 8 | 拂 | 拂 | 拂〔拂〕 | 〔タヒホ土〕(「拂」下) | 拂 | 拂禦侍〔百〕掃 | 拂水本尾本「細」旧枝作掃 |
| 172 | 7 | 9 | 庭 | 庭 | 庭 | 庭〔クアハ土〕 | 庭 | | |
| 173 | 7 | 9 | 〔乎〕 | 〔乎〕 | — | 乎〔クア土ホ山〕 | 〔乎〕 | 厚慈〔乎〕 | 原脱乎字、搥水本朝本「細山」補 |
| 174 | 7 | 9 | 〔弓之〕 | 〔弓之〕 | 〔弓之〕 | 〔ナシ〕(「之」下) | 〔弓之〕 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|--------------------|---------------------|--------------------|--------------------------|---------------------------------------|--|---|--------------------|-------------|
| 175 | 7 | 9 | 天之日嗣 (乃) 政 者 | | 天之日嗣 (乃) 政 者 | | 天之日嗣 (乃) 政 者 | 詔詞群四第廿四詔賢人 (乃) 能臣 (乎) 得 (母之) 天下 (乎婆) 平 (久) 安 (久云々) / 清按政 (者) 者字當 大書 | 天之日嗣 (乃) 政 者 | 天之日嗣 (乃) 政 者 | 者原為小書、摺例為大書 |
| 176 | 7 | 9 | 平 | | 平 | | 平 (クハヒ土中) / 当 作平 | 平 (久) 天 地日月 (上) 共 (利) | 平原作乎、摺水本白本尾 本「細」改 | | |
| 177 | 7 | 10 | 雨 | | 雨 | | 雨 (田) | | | | |
| 178 | 7 | 11 | 從 | 從、縮略作行 | 從 | 從事、紀略作行事 | 行 (キ) | | | | |
| 179 | 7 | 11 | 諸王 | 諸王、據廣本中原本淀 本印本補 | 諸王 | | | 諸王 | | | |
| 180 | 7 | 12 | 字 | | 且 | | | 字 | | | |
| 181 | 7 | 13 | 授賜 | 授賜、據廣本印一本補 | 授賜 | 授賜、據一本補、續後 紀三代實錄有例 | 授賜 (一本統後後紀三代 實錄有例) | 授賜 | 原脫授賜二字、摺大本日 校及辨後紀史例補 | | |
| 182 | 7 | 14 | 然 | 然、原作烈、據廣了本 印一本改 | 然 | 然、原作烈、據一本改、 續後紀三代實錄有例 | 然 (一本三代紀續後紀) | 然 | 然原作烈、摺大本日校及 辨後紀史例改 | | |
| 183 | 7 | 14 | [毛] | | [毛] | | [クアハホ] (「毛」下) | [毛] | 原作止奈利、摺水本白本 朝本「細」田校改、「山 岡俊明云物一本作賜春村 之宜從」 | | |
| 184 | 7 | 15 | 劣 | 劣、原作幼、據廣本傍 朱書印本改 | 劣 | 拙劣、丹本日本橋本昌 本作拙幼蓋刻同 | 幼 (ク旧刻ハ土田) / 清按今年天皇御年二十 四、不可言拙幼 | 劣 | | | |
| 185 | 7 | 15 | 始 | | 初 | 初、尾本橋本昌本作始 | 始 (ヒ土田) | 始 | 親王等始 (天) | 始原作初、摺尾本及辨紀 史例改 | |
| 186 | 7 | 15 | 穴 | 穴、原作共、據廣本印 一本改 | 穴 | 穴、原作共、據一本改 | | 相穴 (奈比 泰) (利) | 穴原作共、摺日校及辨紀 史例改 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|-------------|--|-------------|-----------------|-------------|--|-------------|-----------------|---|
| 187 | 7 | 15 | 事依 (天 之) | | 事依 (天 之) | | 事依 (天 之) | 詔詞解第三詔跡務 (尔) 张結 (尔) 阿奈々 (比) 奉輔依奉 (年) 事 (尔) 依而 (志) 云々 | 事依 (天 之) | 事依 (天 之) | 按拠例事字下、当有尔字 |
| 188 | 7 | 16 | 所念行 | | 所念行 | | 所念行 | | 所念行 | 所念行 | 按拠例行字下常有須字 原以正間脱一以字、拠水 本尾本大本旧校補 心原 作人、拠大本及前後紀文 例改 |
| 189 | 7 | 16 | 以以 | | 以— | 是以正直、正上一有以 字 | 以— | 以 (一本ウヒ土日) | 以以 | 是以以正直 之心 (天) | |
| 190 | 7 | 16 | 心 | | 人 | 人、一作心 | 人 | 心 (一本就紀三代紀號 後紀) | 心 | 心 | |
| 191 | 7 | 16 | 庭 | | 廷 | | 廷 | | 庭 | | |
| 192 | 8 | 1 | 凡 | | 凡 | | 凡 | | 凡 | | |
| 193 | 8 | 1 | 奈母 | | 奈母 | | 奈母 | | 奈母 | 「多采 (尔 止奈母)』 | 「奈母原为大書、拠例為 小書』 |
| 194 | 8 | 3 | 并 | | 并 | | 并 | 並 (旧) | 并 | | |
| 195 | 8 | 3 | 已 | | 以 | | 以 | | 以 | | |
| 196 | 8 | 4 | 給侍 (留 人) | | 給侍 (留 人) | | 給侍 (留 人) | 給侍 (留) 人、戸令曰 九年八十月及藤原給侍一 人九十二人、百歳五人、 義解訓、其給侍者不限 貴賤皆普給之 | 給侍 (留) 人 | | 朝臣原作真人、拠内本日 校改、按續日本後紀、承 和六年二月庚午條、同年 九月乙酉條、同七年正月 丁未條、同十四年正月丁 丑條、嘉祥二年九月丁巳 條、及本史下文五月己卯 |
| 197 | 8 | 11 | 真人 | | 真人 | | 真人 | | 真人 | 朝臣 | 文室朝臣助 雄 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|-------|-----------------------------|-------|------------------------------|-------|---|-------|--------------|--|
| 214 | 9 | 3 | 威 | | 威 | 威儀、原作或儀、據諸本及紀畧改 | 成 | 威〔キケラ土ホ〕／威〔田〕 | 威 | 警譯威 | 威原作或、拠本本朝本「細」及紀畧改 |
| 215 | 9 | 3 | 近 | 近、據御本原本中原本印本補 | 近 | | 近 | | 近 | | |
| 216 | 9 | 3 | 少將 | | — | | — | | — | | |
| 217 | 9 | 3 | 將 | 將、據中原本補 | 將 | | 將 | | 將 | | |
| 218 | 9 | 4 | 判 | 判、原作判、據内本昌本改、即判俗字、原本傍朱書〔御殿〕 | 判 | 判、原作判、據内本昌本改、即判俗字 | 判〔判〕 | 〔七〕〔判〕下〕／判〔田〕／知云、判當作判判制判俗字 | 判 | 金判福貴滿 | 判原作判、「今改、判即判字、六朝用此體*」 |
| 219 | 9 | 5 | 太政官重宣 | 太政官重宣云々、見要略〔五三〕 | 太政官重宣 | 太政官重宣五三 | 太政官重宣 | 政事要略五十三ノ八十三丁 | 太政官重宣 | | |
| 220 | 9 | 6 | 令 | 令、原作命、今意改 | 命 | | 命 | | 命 | | |
| 221 | 9 | 6 | 補 | 非、據原本傍書印一本補 | 補 | 非、據一本及要略補 | — | 非〔政五十三〕直〔山ホ〕 | 非 | 又雖非別錄中官直勝示路頭 | 原脫非字、拠田校及政事要略卷五十三所引補直原作並拠山本細本改 |
| 222 | 9 | 8 | 並 | | 並 | | 並 | | 直 | | |
| 223 | 9 | 8 | 事條 | | 事條 | 事條、原作事條、據諸本改 | 事修 | 條〔一本タ土日〕齊〔田ハ日〕 | 事條 | 自餘事條 | 條原作條、拠本本大改 |
| 224 | 9 | 9 | 齋 | | 齋 | | 齋 | | 齋 | | |
| 225 | 9 | 9 | 宣詔 | | 宣詔 | 宣詔云々、宣合考三代格一二、一六、四四 | 宣詔 | 格〔十六ノ廿三才〕／格文有異同ノ三代実録四十四ノ十二丁可合致、又三代格十二ノ十五丁 | 宣詔 | | |
| 226 | 9 | 10 | 本 | 本、三代格〔一六〕作元 | 本 | | 本 | | 本 | | |
| 227 | 9 | 10 | 非有所 | 非有所、同上作無所禁 | 非有所 | | 非有所 | | 非有所 | | |
| 228 | 9 | 10 | 由 | 由、原本傍書〔百〕 | 由 | 所由、恐當作所由劫、原作如、據三代格十二改三代格一六作失 | 由〔司〕 | 格 | 由 | 所再〔由〕 | 再疑致由〔田田校作司、三代格十六又作由「按唐六典十七、諸牧監条云、若諸監之細馬生駒、以其 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|------|-----------------------------|------|---|---------------------|---------------------------------|------|--|
| | | | | | | | | | | 数申所由司、又沙苑藍条云、凡羊毛及雜畜皮角皆具數申送所由焉、拠此作司者非也、御宅令所由人 |
| 229 | 9 | 10 | 芥斤 | 芥斤、三代格作鎌芥 | 芥斤 | 捕 | 芥斤 | 捕 | | |
| 230 | 9 | 10 | 捕 | 捕、同上作誤 | 捕 | | 捕 | | | |
| 231 | 9 | 11 | 跡 | 後、同上作誤 | 跡 | | 跡 | | | |
| 232 | 9 | 11 | 妨 | 妨、原作如、拠同上改 | 妨 | | 如《妨》 | 失《格》 | 妨 | 妨其權蘇之業 |
| 233 | 9 | 11 | 權蘇 | | 權蘇 | | 權蘇 | 權蘇、漢韓信傳云、權蘇後纓／格十二云、奪取百姓鎌芥以助權蘇之類 | 權蘇 | 妨其權蘇之業 |
| 234 | 9 | 11 | 下知 | 下知、原作如下、據印本及三代格改 | 下知 | | ハ〔日〕旧作知下 | | 下知 | |
| 235 | 9 | 11 | 豪貴之家 | 豪貴之家、三代格作或公或私 | 豪貴之家 | | | | 豪貴之家 | |
| 236 | 9 | 14 | 殺 | | 扳 | | 殺〔一本クアアハヒ土ホ山田〕／難〔田〕 | | 殺 | 折木殺草 |
| 237 | 9 | 14 | 災 | | 異 | | 〔クアアハヒ土ホ山田〕〔災〕下 | | 災 | 記災也 |
| 238 | 9 | 15 | 從五位上 | 上、原作下、據跋本傍書印一本及續後紀承和十五年正月紀改 | 從五位上 | | 從五位上、上原作下、據續後紀十八初改 | 從五位下 | 從五位上 | 從五位上轉江王 |
| | | | | | | | | | | 上原作下、拠旧校改、按續後紀嘉祥元年正月戊辰條云、授從五位下嶋江王從五位上、然則作下者非從五位上、然則作下者非也 |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|---------|--------|--|--|----------------|--|--|--|--|---|
| 239 | 9 | 15 | 煮 | 丞 | | | 丞 | 丞 (IH) | | | | |
| 240 | 9 | 16 | 齋 (1字目) | 齋 | | | 齋 | 齋 (IH、土田) | | | | |
| 241 | 9 | 16 | 齋 (2字目) | 齋 | | | 齋 | 齋 (IH、土田) | | | | |
| 242 | 10 | 2 | 開 | 開 | | | 開 | | | | | |
| 243 | 10 | 2 | 散位源朝臣同 | 散位源朝臣同 | | | 散位源朝臣同 | 散位源朝臣同 | | | | 按體例散位下当書位、下文散位大宅朝臣年維、又不書、恐因書上文從五位下某、讀其「而」省者「文」乎 |
| 244 | 10 | 3 | 墨田麻呂 | 墨田麻呂 | | | 墨田麻呂 | 墨田麻呂 (二ノ) 本史十 [五才] 与此同 | | | | |
| 245 | 10 | 4 | 從 | 從 | | | 從 (ヲア上文十三右才土田) | 從五位下高階真人信澄 | | | | 原脫從字、搥水本朝本内本日校及上文甲子條補 |
| 246 | 10 | 5 | 大后崩 | 大后崩 | | | 大后崩 | | | | | |
| 247 | 10 | 5 | 葬大皇太后 | 葬大皇太后 | | | 葬大皇太后 | 大 (IH、) (「大」字) / 大 (ノ) (「大」字) / 葬大皇太后、諸陵式云應觀陵大皇太后攝氏在山城國葛野郡 | | | | |
| 248 | 10 | 5 | 連令 | 連令 | | | 連令 | 清按應觀詔字 (「連令」助) | | | | |
| 249 | 10 | 6 | 三日 | 三日 | | | 三日 | 月 (ヲ略土本山) / 契冲河社一二此文ヲ引テ三日ノ上ニ三月卜小昏ヲ下ニ水府本卜標セリ | | | | 三日朝本「細山」紀著作三月、旧校作三月三日四字 |

三日、朝本搥水本細本山本及紀略作三月、原才本御才本水本印一本作三月三日

三日、朝本搥水本細本山本紀略作三月、一本此上有三月二字、水本同

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|--|--|-----------|----------|--|--|
| 250 | 10 | 6 | 詠言 | | 詠言 | | 詠言 | 詠言、和名抄態〔古勞反字亦作識久佐毛知比〕 蔡米岡為之文德美録云 嘉祥三年詠言云々 | 詠言 | | | |
| 251 | 10 | 7 | 俗名母子 草 | | 俗名母子 草 | | 俗名母子 草 | 俗名母子草、和名抄本草云菴蘆子〔上官池、和名波々古〕 荆楚歲時記云三月三日云々、是日取鼠麴汁糝和粉謂三龍香料以厭時氣、後拾遺雜語部みかの夜のもちひはくはしわつらはしきけ八よとのには、こつむ也 | 俗名母子 草 | 「俗名母子草*」 | 「正辭按、倭名抄所謂菴蘆子和名波々古、是也、嘉祐本傳、所謂鼠麴草也、荆楚歲時記云、三月三日取鼠麴汁糝和粉、謂之龍古料、以厭時氣、江西人呼為鼠耳草*」 | |
| 252 | 10 | 8 | 天皇太后 | | 天皇太后 | | 天皇太后 | | 天皇太后 | | | |
| 253 | 10 | 9 | 長、據内本印一本捕 高麗大使 獻 | 長、據内本捕 高麗大使云々、見寶龜七年十二月紀 | 長、據内本捕 高麗大使云々、見寶龜七年十二月紀 | 長、據内本捕 高麗大使云々、見寶龜七年十二月紀 | 長(十) | 見宝龜七年十二月之巳紀 | 長 | 身長六尺二寸 | 原脫長字、據内本日校補 | |
| 254 | 10 | 10 | 高麗大使 獻 | 高麗大使云々、見寶龜七年十二月紀 | 高麗大使云々、見寶龜七年十二月紀 | 高麗大使 獻 | 白面、宋魏運年互相侵 伐王玄譏勸宋大將沈慶 之謙曰昔嘗問奴織當問 婢今欲伐國奈何与白面 善生謀之、白乘天時 〔文集卷一采地黃者詩〕 携茶柴門家賣與白面郎、 社之美時馬上誰家白面 郎臨皆下馬坐人床／葛 原詩話 | 白面 | 白面 | | | |
| 255 | 10 | 11 | 白面 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------|-------------|--------|------------------------|--------|--|--------|--------|------------------|
| 272 | 11 | 4 | 淳和太皇太后 | | 淳和太皇太后 | | | 淳和太皇太后 | | | |
| 273 | 11 | 4 | 哀 | | 哀 | 哀、原作哀、據一本内山本改 | 裏《哀》 | 〔一本ナ山〕〔哀〕下 | 哀 | 哀戚 | 哀原作裏、摺内本大本「山」旧校改 |
| 274 | 11 | 6 | 上仙 | 上仙、日本靈異記作救仙 | 上仙 | 上仙、靈異記作救仙 | 上仙 | 寂〔靈才記〕 | 上仙 | 上仙 | 龜本靈異記下卷卅九條、作救仙 |
| 275 | 11 | 7 | 圓指 | | 圓指 | 圓指、出于莊子 | 圓指 | 圓指、賈誼傳、圓指如意、莊子天地篇、手撓圓指、玄奘疏有本作頤字者、言用圓指揮 | 頤指 | 頤指 | |
| 276 | 11 | 8 | 遣 | 遣、印一本作遣 | 遣 | 遣、一本作遣 | 遣 | 遣 | 遣 | 遣 | |
| 277 | 11 | 9 | 橘里 | | 橘里 | | 橘里 | 和名抄盛智郡立花〔多知花〕 | 橘里 | 橘里 | |
| 278 | 11 | 11 | 天皇誕生 | | 天皇誕生 | | 天皇誕生 | 嵯峨天皇 | 天皇誕生 | 天皇誕生 | |
| 279 | 11 | 11 | 有乳母姓神野 | | 有乳母姓神野 | | 有乳母姓神野 | 有乳母姓神野、續紀延曆十年正月紀甲戌太秦公忌寸額刀自女賜姓賀美能宿祢、賀美能親王之乳母也 | 有乳母姓神野 | 有乳母姓神野 | |
| 280 | 11 | 12 | 郡名 | | 郡名 | | 郡名 | 伊豫国神野郡也、見類史卷廿八 | 郡名 | 郡名 | |
| 281 | 11 | 13 | 織 | 織、昌才本作繰、下同 | 織 | 織文、丹本朝本筋本作繰文、昌才本作繰文、下同 | 織 | 繰〔ウラヒ〕／繰〔日ウ〕 | 繰 | 繰 | |
| 282 | 11 | 13 | 沙門慧等 | | 慧等 | | 沙門慧等 | 慧〔日ウ〕／事見元亨衆書 | 慧等 | 慧等 | |
| 283 | 11 | 13 | 續 | (281項参照) | 續 | (281項参照) | 續 | 繰〔ウラヒ〕・繰〔日ウ〕・繰〔日ウ〕 | 繰 | 繰 | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|------|-------------------|------|-----------------------|-------------|---|------|--------------|---|
| 284 | 11 | 14 | 康僧 | | 康僧 | 康僧、異稱龜本傳引此 文作唐僧 | 康僧 | 異稱日本傳引此文康僧 作唐僧 | 康僧 | | 戊原作成、摺語「旧刻」 本改 |
| 285 | 11 | 14 | 丙戌 | | 丙戌 | | 丙戌 | 戊〔旧刻・旧〕／当作 戊 | 丙戌 | 丙戌 | |
| 286 | 11 | 15 | 齋 | | 齋 | | 齋 | 齊〔旧・旧〕 | 齋 | | |
| 287 | 11 | 15 | 座 | 座、原作坐、據御本及 紀略改 | 坐 | | 坐 | | 坐 | | |
| 288 | 11 | 15 | 便 | | 便 | 便、原作使、據諸本紀 畧改 | 便 | 便〔クマキキ土ホ山旧〕 | 便 | 坐「便」於 大極殿 | 「便原作」便、「便」本本 内本明本「細山」旧校及 紀略作便「改」 |
| 289 | 12 | 3 | 逸勢 | | 逸勢 | 逸勢、薩麻紀點トシナ リ（「六六」） | 逸勢 | トシナリ 薩麻紀点／ 逸勢事見承和九年七月 己酉紀 | 逸勢 | | |
| 290 | 12 | 3 | 人 | | 人 | | 人 | 八〔史觀所引一本〕 | 人 | | |
| 291 | 12 | 3 | 尤妙隸書 | | 尤妙隸書 | | 尤妙隸 《隸》書 | | 尤妙隸書 | 尤妙隸書 | |
| 292 | 12 | 4 | 延暦之季 | | 延暦之季 | | 延暦之季 | 延暦之季ー、唐書日 本傳云、貞元末其王曰 桓武遣使者、其字子橘 免勢、浮屠空海願留律 業、歷二十餘年、使者 高階真人未請免勢等俱 還詔可、按免是逸之誤 | 延暦之季 | | |
| | | | | | | | | | | | 繪旧校作隸、「正辭曰、 于孫字書云隸隸上通下正、 禮庵手鑑云、隸正、隸隸 並或作、據之、繪似當作 隸或絲、然天台六十卷音 義、有隸字訓オヤシ、類 聚名義抄隸俗作隸、並亦 從余、不可妄改＊」 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------|--|--|------------------------|--|--|
| 233 | 12 | 4 | 々中 | | 唐中 | | | 唐中 | 々 (四八) | | 唐中 | | 文原作父、搦水本大本「山」改 |
| 294 | 12 | 4 | 文人 | | 文人 | 文人、原作父人、搦諸本改 | 交《文》人 | | 〔夕山日一本〕〔「文」下〕 | | 唐中文人 | | |
| 295 | 12 | 4 | 承和九年 | | 承和九年 | | 承和九年 | 承和九年 | 見承和九年七月己酉紀 | | 承和九年 | | |
| 296 | 12 | 5 | 搦搦 | | 搦搦 | | 搦搦 | 搦搦 | | | 搦搦 | | |
| 297 | 12 | 6 | 虛 | | 虛 | | 虛 | 虛 | 虚 (四四) | | 虚 | | 喪朝本作表 笄谷望之曰、喪是墓字之誤 / 「矣謂喪不必作墓作、表亦非是 (不明)」 |
| 298 | 12 | 7 | 喪前 | 前、原本傍書 (伊敷) | 喪前 | 喪前、當作本蓋前、朝本白才搦本作表前 | 喪前 | 喪前 | 喪 (「アハ才王」〔「喪」字〕 / 喪皇驚字之誤 | | 喪前 | | |
| 299 | 12 | 7 | 沖 | | 沖 | 沖、尾本搦本細本昌本作冲、恐是 | 沖 | 沖 (七上赤日) | | | 妙沖 | | 沖尾本「細」作冲 |
| 300 | 12 | 7 | 及詔歸葬 | | 及詔歸葬 | | 及詔歸葬 | 及詔歸葬 | | | 及詔歸葬 | | 詔及原例今意改 / 「及詔依旧為是 (不明)」 |
| 301 | 12 | 8 | 時康親王 | | 時康親王 | | 時康親王 | 時康親王 | 光孝天皇 | | 時康親王 | | |
| 302 | 12 | 8 | 仲野親王 | | 仲野親王 | | 仲野親王 | 仲野親王 | 桓武皇子 | | 仲野親王 | | |
| 303 | 12 | 8 | 賀陽親王 | | 賀陽親王 | | 賀陽親王 | 賀陽親王 | 仲野兄 | | 賀陽親王 | | |
| 304 | 12 | 9 | 親王為上總太守四品本康親王為上野太守 | 為、上總太守、已見續後紀嘉祥二年閏十二月 | 親王為上總太守四品本康親王為上野太守 | 人康、為上總太守、已見仁明紀嘉祥二年閏十二月紀 | 親王為上總太守四品本康親王為上野太守 | 親王為上總太守四品本康親王為上野太守、此記復出 | 大 (四八) / 史體祐之按、仁明紀嘉祥二年閏十二月人康為上總太守、三年正月本康為上野太守、此記復出 | | 四品人康親王為上總太守四品本康親王為上野太守 | | 松崎祐之曰按仁明紀、嘉祥二年閏十二月、人康親王為上總太守、三年正月、本康親王為上野太守、此紀復出 |
| 305 | 12 | 9 | 帥 | | 帥 | | 帥 | 帥 | 輔 (四八) | | 帥 | | 真水本大本「山」作真、按真真字體易誤、而此人此他死所見、不可攷 |
| 306 | 12 | 10 | 真 | 真、印一本作貞 | 真 | | 真 | 真 | 真 (「アハ才山日一本」) / 布勢朝臣真吉此外无所見 | | 真 | | |
| 307 | 12 | 11 | 春日臣 | | 春日臣 | 春日臣、臣上一本有朝字、按卷八作春日臣有朝字非 | 春日臣 | 春日臣 | 朝 (「アハ才日」) (四四) / 清按卷八 (十一丁) 作春日臣有朝字非 | | 春日臣 | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------|--------------------------|--------|---|--------|---------|---|
| | | | | | | | | | |
| 308 | 12 | 12 | 貞琴 | 貞琴、一本作眞琴、恐非 | 貞琴 | (日臣)間) | 貞琴 | | |
| 309 | 12 | 12 | 大 | 大、據諸本及上下文補 | 一 | 大〔夕ア上 文十二丁〔左四〕ヒ上 赤日〕／卷二〔五丁右〕 坂上大宿務清野卒 | 大 | 坂上大宿務清野 | 原脱大字、據水本尾本朝本「細」日校及上下文補 |
| 310 | 12 | 13 | 從四位下伴 | 從四位下伴、昌本四作 | 從四位下伴 | (日イ)／五(日) | 從四位下伴 | | |
| 311 | 12 | 13 | 橘朝臣貞根 | 橘朝臣貞根 | 橘朝臣貞根 | 良(三代紀一ノ十六才) | 橘朝臣貞根 | 橘朝臣貞根 | 三代実録天安二年十一月甲子條作良根 |
| 312 | 12 | 13 | 從四位上源 | 從四位上源、丹本昌本四作五、恐非下文共作 | 從四位上源 | 五〔夕日イ〕／卷三〔六才〕五〔十六才〕六〔二十才〕八〔三才〕同〔十九才〕共作從四位上 | 從四位上源 | | |
| 313 | 12 | 14 | 右中弁 | 中、原作大、據下文十一月壬寅條、及廣才本印一本改 | 右大辨 | | 右大辨 | | |
| 314 | 12 | 15 | 武藏國奈良神 | 奈良神預官社、已見續後紀嘉祥二年十月紀 | 武藏國奈良神 | 武藏國奈良神、神名賦武藏國橿原郡奈良神社、按統後紀卷十九嘉祥二年十月壬子武藏國奈良郡奈良神預官社今再出可疑 | 武藏國奈良神 | | |
| 315 | 12 | 15 | 於 | 於、原作爲、據諸本改爲 | 於 | 於〔夕ア上山細一本日〕 | 於 | 列爲「於」官社 | 「於原作*」爲「櫻」水本大本明本「細山」作於「改」、「正辭按爲於子、古並義通、王引之曰、家 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------|---------------|------|------------|------------------|------|--------|---|--|
| | | | | | | | | | | | 大入曰、為籍於也、莊二十二年左傳云、莠于正鼎、衆文云、于本或作為、鮑本戰國策、西周策云、君不如令齊臣陰合為秦、姚本為作於、史記孟嘗君傳同、家語晉語云、稱爲前世、韋注曰、言見稱譽於前世、是為即於也、其說精核可從*」〔訓〕とあり)、〔為据下文作為是經傳衆詞之例、不可證唐以後之文〕 |
| 316 | 12 | 16 | 虜 | 虜 | 虜 | 虜(虜) | 〔クアアハク一本土日〕〔虜〕下) | 虜 | 陸奥(虜) | 虜原作虜、掇水本白大本明本改 | |
| 317 | 12 | 16 | 弦 | 弦 | 絃 | 絃 | 絃 | 絃 | 絃 | 山岡淺明云載載誤 | |
| 318 | 12 | 16 | 載 | 載、原作絃、今意改 | 載 | 載、山岡淺明云載之誤 | 山岡淺明云載載誤 | 載 | 載此神靈 | 山岡淺明云載載誤 總曰本作載、「正辭絃、集韻云、載或作載、通作愈、則載、或亦作載、又按、載愈經典通用、後人增字作載也*」 | |
| 319 | 13 | 1 | 楯 | 楯 | 楯 | | 楯(ハイ日) | 楯 | 禱而楯 | | |
| 320 | 13 | 2 | 上、據紀略補 | 上、據紀略補 | — | 言、紀畧此下有上字 | 上〔畧〕 | — | 石見國言 | 紀畧言字下有上字 | |
| 321 | 13 | 2 | 卯 | 卯 | 卯 | 卯、原作卯、據昌本改 | 卯〔日〕 | 卯 | | | |
| 322 | 13 | 2 | 六月戊申 | 六月丁未 〔補〕戊申 | 六月戊申 | | | 六月戊申 | | | |
| 323 | 13 | 2 | 能登國 | 能登國 | 能登國 | | 羽咋郡〔式〕 | 能登國 | | | |
| 324 | 13 | 3 | 原 | 原 | 原 | 原、據諸本紀畧補 | 〔キクアヒヒ上日〕〔原〕下) | 原 | 藤原朝臣春津 | 原脫原字、掇水本尾本朝本日校及紀畧補 | |

| | | | | | | | | |
|-----|----|---|--|-------------------------------------|---|-------------|-------|--|
| 325 | 13 | 4 | 廣瀬神 | | 入間郡〔式〕 新治郡〔式〕 | 廣瀬神 | | |
| 326 | 13 | 4 | 鴨大神 | | 生〔日イ〕〔主〕傍 ノナシ〔式〕〔玉〕傍 ノ三代実録五貞觀三年 九月祭ニ主玉神トミユ、 清按神名式舊刻本新治 郡祭ニ神玉神社トミユ、 雲州本ニハ一本ニ麴子 神玉神社ニ作リ、蓋 諸本各一字ヲ脱セルモ ノニ字此ニ見エタル如 ク神主玉神社ニ作ルヘ シ、三代実録ニモ主玉 トアルヲヤ | 鴨大神 | | |
| 327 | 13 | 4 | 神主玉神 主玉神、神名式无玉字、 按三實貞觀五年九月紀 與此同 | 神主玉神、三代實錄貞 觀五年九月紀作主玉神、 神名式无玉字 | 神主玉神 神主玉神 神主玉神 | 神主玉神 | | 延喜神名式无玉字、「日 刻本作神主神社」、雲州 本无玉字、「作神玉神社」、 按延喜式諸本盖各脱一字 也、宜從此紀文作神主玉 神社、「三代実録貞觀三 年九月祭有主玉神可以證」 |
| 328 | 13 | 4 | 並列於官 社 | 並列於官 社 | 並列於官 《官》社 〔タフ白ヒ土〕〔官〕 下) | 並列於官 社 | 並列於官社 | 官原作宮、拠水本白本尾 本朝本日校改 |
| 329 | 13 | 5 | 阿米郡和 氣命 | 阿米郡和 氣命 | 阿米郡和 賀茂郡〔式〕 | 阿米郡和 氣命 | | |
| 330 | 13 | 5 | 伊太豆和 氣命 | 伊太豆和 氣命 | 同上 | 伊太豆和 氣命 | | |
| 331 | 13 | 5 | 阿豆佐和 氣命 | 阿豆佐和 氣命 | 同上 | 阿豆佐和 氣命 | | |
| 332 | 13 | 5 | 佐岐多麻 比咩命 | 佐岐多麻 比咩命 | 同上 | 佐岐多麻 比咩命 | | |
| 333 | 13 | 5 | 佐々神 | 佐佐神 | 阿拜郡 | 佐佐神 | | |
| 334 | 13 | 6 | 角上神 | 角上神 | 壺岐郡 | 角上神 | | |
| 335 | 13 | 7 | 天津爲備 前守 | 備前、廣才本印一本作 備後、按下文八月丙辰 前守 | 天津爲備 前守 | 天津爲備 前守 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|---------|---------------|-----------------------|--|---------|---|---------|--------|-------------------------|
| 346 | 15 | 4 | 前殺 | 前殺、原作殺前、今從據紀略 | 殺前 | 殺前、紀畧作前殺 | 殺前 | 折殺（キ） | 殺前 | 爲殺前也 | 殺前、紀畧作前殺 |
| 347 | 15 | 4 | 晏子内親王 | | 晏子内親王 | 晏子内親王母藤原列子王 | 晏子内親王 | 晏子内親王母藤原列子王 從四位上藤原是雄女 | 晏子内親王 | | |
| 348 | 15 | 5 | 伊勢齋 | | 伊勢齋 | 齊（日八土田） | 伊勢齋 | 齊（日八土田） | 伊勢齋 | | |
| 349 | 15 | 5 | 惠子内親王 | | 惠子内親王 | 惠子内親王 但披施其事紀之世莫知之卷九（十右） | 惠子内親王 | 惠子内親王 同母妹 | 惠子内親王 | | |
| 350 | 15 | 5 | 賀茂齋 | | 賀茂齋 | 齊（日八土田） | 賀茂齋 | 齊（日八土田） | 賀茂齋 | | |
| 351 | 15 | 5 | 以命兩齋内親王 | | 以命兩齋内親王 | 齋（ル四） | 以命兩齋内親王 | 以命兩齋内親王 | 以命兩齋内親王 | | |
| 352 | 15 | 5 | 也、據紀略補 | | 也、據紀略補 | 一【也】 | 一 | 【ナ】（【也】下） | 一 | | |
| 353 | 15 | 5 | 古子 | | 古子、原作古子、據丹本外四本及類史四十四改 | 右【古一】 【古一本】下ノ一代要記作古子、按卷五【二丁ウ】正四位下藤原朝臣古子授從三位 | 古子 | （ル四十ヲヒホ山田） 【古一本】下ノ一代要記作古子、按卷五【二丁ウ】正四位下藤原朝臣古子授從三位 | 古子 | 藤原朝臣古子 | |
| 354 | 15 | 6 | 藤原朝臣年子 | | 藤原朝臣年子 | 藤原朝臣年子 | 藤原朝臣年子 | 藤原朝臣年子 | 藤原朝臣年子 | 藤原朝臣年子 | |
| 355 | 15 | 7 | 故有此貴 | | 故有此貴 | 貴、原作意、據諸本改、又作恩 | 故有此貴 | 故有此貴 （タマヒハオ土田） | 故有此貴 | 故有此貴 | 貴原作意、據本本朝本尾本日校改、旧校云、又作恩 |
| 356 | 15 | 8 | 隸 | | 隸 | 隸【隸】 | 隸 | 隸【隸】下 | 隸 | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|------|------------------|------|---------------------|------|----|--|--|--|
| 357 | 15 | 8 | 甘露 | | 甘露 | 治部式 | | 甘露 | | | |
| 358 | 15 | 8 | 船譜 | | 船譜 | 和名抄 | | 船譜 | | | |
| 359 | 15 | 8 | 火雷 | | 火雷 | 大〔式〕 | | 火雷 | | | 神名式火雷、雲州本作火雷云、頭注秘報、文武紀大定二年、清和実録貞觀二年、作火雷 |
| 360 | 15 | 9 | 通 | 進、據原本傍書内本印一本補 | 通 | 進、據内本補 | 進 | 進 | | | 進大和國丹生川上雨師神階 |
| 361 | 15 | 10 | 〔仁〕 | | 〔仁〕 | 尔〔月命〕 | 〔仁〕 | | | | |
| 362 | 15 | 11 | 六 | 六、下文九月乙未條作七 | 六 | | 六 | | | | |
| 363 | 15 | 11 | 朝臣 | 朝臣、據同上及内本寫本補 | 朝臣 | 朝臣〔子土ノ〕 | | | | | 大中臣久世主 |
| 364 | 15 | 12 | 今 | | 今 | 今〔土〕／本朝月命／作今〔毛〕今〔毛〕 | 古 | | | | 古〔毛〕今〔毛〕 |
| 365 | 15 | 12 | 朝廷 | | 朝廷 | 庭〔夕土日〕 | 朝廷 | | | | 外祖父正一位藤原朝臣 |
| 366 | 15 | 13 | 左大臣 | 左大臣、據原本傍書印一本及紀略補 | — | 左大臣〔キ〕 | | | | | 冬嗣 |
| 367 | 15 | 13 | 藤原朝臣 | | 藤原朝臣 | 冬嗣藤原史并〔四丁右〕 | 藤原朝臣 | | | | 冬嗣 |
| 368 | 15 | 14 | 〔久〕 | 〔久〕、原作〔之〕、據内本改 | 〔久〕 | 之〔タテヒ土〕／久 | 〔之久〕 | | | | 勅命〔尔〕坐宣〔之久〕 |
| | | | | | | | | | | | 之久原作天一字、據水本朝本尾本日校作之、據内本補久字、【存疑】之久云々○水本上掇字可削、據内云々大字當作今從内本四字 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|------|------|----------------------|---------------------|-------------|---|------|----------------|--|
| 377 | 16 | 3 | 寓形苦壤 | | 寓形苦壤 | 苦、一作苦、丹本作苦 | 寓形苦壤 | 苦(夕) | 寓形苦壤 | 寓形苦壤 | 苦水本作苦、旧校作者、尹詮云、陳書姚察傳、志在終喪、頗有陳讓、其略云、臣將卑志苦壤、豈期朝恩曲覃、擬此作者苦及若者非 |
| 378 | 16 | 3 | 沆 | 沆 | 沆 | | 沆 | 沆 | 沆 | 沆思鼎湖 | 沆旧校作沆、鼎湖刻作鼎、「並誤*」 |
| 379 | 16 | 3 | 罪 | 罪 | 罪 | | 罪 | 罪(日田白土) | 罪 | | |
| 380 | 16 | 3 | 懷 | 懷 | 懷 | | 懷 | 懷(日) | 懷 | | |
| 381 | 16 | 4 | 龍 | 龍 | 龍、原作冠、據内本改 内本印一本改 | 龍、原作冠、據内本改 | 冠 | 龍(ナ) | 龍 | 宜加龍章 | 龍原作冠、據内本旧校改 |
| 382 | 16 | 4 | 撰本 | 撰本 | | 撰本、出左傳僧公卅二年、及文選展風 | 撰本 | 撰本、左伝卅三十二年 尔墓之本撰矣、文選展 風試望平原蔓草繁骨撰 本敘魂 | 撰本 | | |
| 383 | 16 | 4 | 太政大臣 | 太政大臣 | | | 太政大臣 | 壤(キヒ土) 壤(日) 壤(日) | 太政大臣 | | 壤原作壤、據尾本及紀畧 改 |
| 384 | 16 | 5 | 壤 | 壤 | | | 壤 | | 壤 | 爲水潦決壤 | |
| 385 | 16 | 5 | 授 | 授 | 授、原在正三位上、據 内本印一本移 | 授、原在正三位上、據 内本改 | 授 | テリ(ナ) | 授 | 授從三位藤 原朝臣貞子 | 授字原氏、據内本旧校、 貞子下原有授字、據内本 旧校割 |
| 386 | 16 | 5 | 无 | 无 | | | 无 | 充(日ハ) | 无 | 无位藤原朝 臣皇子 | 无原作元、據白本水本尾 本「細」改 |
| 387 | 16 | 8 | 无 | 无 | | | 无 | 无(クハヒ土赤日田) (元「横) | 无 | 外從五位下 神門臣富繼 | 外下原有位字、據水本朝 本尾本「細」旧校割 |
| 388 | 16 | 8 | — | — | | | — | テリ(クハヒ土赤日) テリ | — | | |
| 389 | 16 | 10 | 圓明 | 圓明 | | 圓明、原作田明、據諸 本及下文改 | 田《圓一 本》明 | [クハヒ土赤日下十 八丁左](「圓一本」下) | 圓明 | 大法師圓明 | 圓原作田、據白本水本朝 本「細」旧校」及下文 |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|------------|----------------------|--------------------|------------------------------------|------------|-------------|---|
| | | | | | | ／東大寺別當次第云、 円明任權律師東大寺別 當能治費云々 | | | 十二月辛亥条改 |
| 390 | 16 | 10 | 筑前國 | | 筑前國 | 宗像郡〔式〕 | 筑前國 | | |
| 391 | 16 | 10 | — | | — | 丙午朔小 | — | | |
| 392 | 16 | 10 | 遠江國 | | 遠江國 | 濱名郡〔式〕 | 遠江國 | | |
| 393 | 16 | 11 | 列 | 列 | 列、知雄云、據例此下 可補於字 | 知雄云、據例列字下可 補於字 | 列 | 列官社 | 山崎知雄云、據例列字下 可補於字 |
| 394 | 16 | 11 | 學士頼利 | 學士、原作學士、據白 本稿本頁本改 | 學士頼利 | 土〔夕旧刻日ハ十〕 | 學士頼利 | 學士頼利 | 土原作上、據水本日本旧 刻「本」改、蓋新刻本朝 賦之誤也、【存疑】蓋新 刻本〇今本蓋ト云ハシ |
| 395 | 16 | 12 | 祈利 | 祈利 | 祈利 | 所〔アハイ土ホ〕 | 祈利 | 為民祈利 | 祈朝本白雲一本「細」作 所、【存疑】為民祈利〇 作所者誤 |
| 396 | 16 | 12 | 己酉〔項 目〕 | 己酉、原在次條庚戌下、 今推移 | 己酉〔項 目〕 | 庚戌（己酉は庚戌の後にあ り） | 己酉〔項 目〕 | 「己酉云々」 | 「此条原在在上、庚戌条下、 諸本皆同、而旧校云推干 爰己酉當移庚戌上、今從此 說改」【存疑】而旧校云 〇而字唯字ニ改ムハシ |
| 397 | 16 | 13 | 圖 | 贈、據源本傍書内本印 一本補 | 圖 | 贈〔ナ〕 | 贈 | 贈大納言正 二位 | 原无贈字、據内本旧校補、 【存疑】贈大納言〇旧校 ノ上ニ及字ヲ加フヘンジ カラサレハ内本ノ旧校ト モヨメルレハナリ |
| 398 | 16 | 13 | 慣 | | 慣 | 慣、清按広彰習也 | 慣 | | |
| 399 | 16 | 14 | 特 | | 特 | 持〔田〕 | 特 | | |
| 400 | 16 | 15 | 泰 | 泰、原作參、據御本廣 イ本、内本改 | 參 | 泰〔ナ〕／泰〔日〕 | 參 | 獨參其選 | 參内本作泰 |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----------|--------------------------|----------|---------------------------|----------|-----------|---|
| 401 | 16 | 15 | 飾 | 飾、白本作飾 | 飾 | 節 (白) | 飾 | 佐味香節麻呂 | 飾白本作節 |
| 402 | 16 | 15 | 先鳴 | | 先鳴 | 左氏義廿一年 | 先鳴 | | |
| 403 | 17 | 2 | 關 | 關、原作關、據跋本傍書印一本改 | 關 | 關、原作關、據一本改 | 關 | 關蓋無事 | 關原作關、拠旧校改、説文見卷一攻異、【存疑】關塞○説又ノ又字除クハシ |
| 404 | 17 | 3 | 因幡守 | | 因幡守 | 続後紀十五ノ十一右 | 因幡守 | | |
| 405 | 17 | 3 | 摸 | | 摸 | 摸 (本) | 摸 | | |
| 406 | 17 | 3 | 嘉祥 | | 嘉祥 | 卷一 (十二左) | 嘉祥 | | |
| 407 | 17 | 4 | 二 | 六十二、紀略作六十三 | 二 | 三 (キ) | 二 | 年六十二 | 紀略作六十三 |
| 408 | 17 | 4 | 班 | | 班 | | 班 | | |
| 409 | 17 | 5 | 摸 | | 摸 | 摸 (本) | 摸 | | |
| 410 | 17 | 6 | 五 | 五、原作四、據上文及跋本改 | 四 | | 五 | 從五位下橘朝臣水能 | 五原作四、拠旧校及上文七月丙子条改 |
| 411 | 17 | 7 | 上 | 上、跋本印一本作下 | 上 | | 上 | 從五位上藤原春綱 | 上内本旧校作下 |
| 412 | 17 | 7 | 因 | 六、據上下文補 | — | 大 (卷一八左十五左○卷四七右卷五四右○卷六一左) | 大 | 坂上太宿禰正野 | 原无大字、拠本史卷一三月丙午条、五月庚辰条、及卷四卷五卷六等所是【補】 |
| 413 | 17 | 8 | 一 (遣散) 間 | | 一 (遣散) 間 | 使 (キ) | 一 (遣散) 間 | 散位正五位下 | 紀略散位上有使字 |
| 414 | 17 | 8 | 祐 | 祐、原作副、據下文天安元年十二月紀及跋本印一本改 | 副 | 祐 (子) / 卷一 (廿三右) 云少副一作少祐 | 祐 | 神祇少祐正六位上 | 祐原作副、拠旧校改、説文見卷一攻異、【存疑】神祇少祐○又ノ字除クハシ、次ナルモ同シ |
| 415 | 17 | 8 | 朝臣 | 朝臣、今意補 | — | | — | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-------|--|-------|--|---|-------|--------|---|
| 416 | 17 | 8 | 齊 | | 齊 | | 齊 (ノ土田田) / 按卷九 (冊四丁才) 中臣朝臣守守為神祇少副、然則此及卷一作少副者非 | 齊 | 中臣齊守 | 齊原作神、據水本改、說文見卷一收異、旧校云中臣下恐脫朝臣二字乎 |
| 417 | 17 | 8 | 伊勢大神宮 | | 伊勢大神宮 | | | 伊勢大神宮 | | |
| 418 | 17 | 9 | 齋 | | 齋 | | 齊 (田土六) | 齋 | | |
| 419 | 17 | 9 | 三靈 | | 三靈 | | 三靈、陸士繪瀧高祖功臣領、三靈改卜、春秋元命苞曰、造起天地締造人君、通三靈之祀、交錯同難、班孟堅典引云、答三靈之蕃祉、李善曰、三靈天地人也 | 三靈 | | |
| 420 | 17 | 9 | 齊 | | 齊 | | 齊 (田刻日) | 齊 | 德敷齊型 | 齊原作齋、摺旧刻本改 |
| 421 | 17 | 9 | 六幽 | | 六幽 | | 〔タフ〕 (「幽」下) / 因 (ハ土) / 六幽、幽是幽之暇、沈休文齊故安陸昭王碑文、六幽允洽、典引云神靈日照、光於六幽、李善云、六幽謂上下四方也 | 六幽 | 馳六幽而薦社 | 幽原作幽、據水本朝本「旧校」改、舒谷望之曰、沈休文齊故安陸昭王碑文、六幽允洽、典引云、神靈日照、光於六幽、李善曰、幽謂上下四方也 |
| 422 | 17 | 10 | 遼運江使 | | 遼運江使 | | 〔タフヒ土赤山〕 (「江」下) / 抱朴子、史記龜策傳、遼運經、經後紀、秦和十五年六月、勅書曰、遼運瑞寶、表昌化於堯壤、戲葉奇恣、契祖期於軒浦 / 「江使、莊 | 遼運郷使 | 遼運江使 | 江原作卿、據水本朝本尾本「細山」旧校改、卿草体類江、因訛也、按莊子外物篇云、宋元君夜半而夢、人披髮闔阿門曰、〔云々〕予為清江使河伯 |

| | | | | | | | | |
|-----|----|----|-------|-------|----------------------|--------------------------------|----|---|
| | | | | | | 子外物篇云、宗元君夜半而夢・・・清江使河伯之所云々、此神亀也 | | 君覚、使人占之、曰此神亀也 |
| 423 | 17 | 10 | 昌化 | 昌化 | 昌化、内本作昌紀 | 昌化 | 昌化 | 化夫「内」本旧校作紀、【存疑】表昌化○承和十五年六月紀ニ此文アリテ亦化ニ作ル、紀ニ作ルモノハ誤ナルヘシ |
| 424 | 17 | 10 | 波臣 | 波臣 | | 昌化 | 昌化 | |
| | | | | | 昌化 | 昌化 | 昌化 | |
| 425 | 17 | 10 | 則哲 | 則哲 | | 則哲 | 則哲 | |
| 426 | 17 | 11 | 猶 | 猶 | 猶、原作猶、據諸本改 | 則哲、皇朝讀云、知人則哲能官人 | 則哲 | 猶原作猶、據水本朝本夫「内」本「細」旧校改 |
| 427 | 17 | 11 | 菜 | 菜 | | 則哲、皇朝讀云、知人則哲能官人 | 則哲 | 猶原作菜、據水本朝本「細」改、旧校云草菜一作宜菜 |
| | | | | | 菜 | 則哲 | 則哲 | |
| 428 | 17 | 11 | 日(日興) | 日(日興) | 日、原作日、據昌4本改諸本作明 | 則哲、皇朝讀云、知人則哲能官人 | 則哲 | 日原作日、據朝本尾本日校改、水本日興作月興、【存疑】日興○興ハ興ノ誤ナルヘシ |
| 429 | | | | | | | | |
| 430 | 17 | 11 | 貞道 | 貞道 | 貞道、紀器作真道 | 則哲、皇朝讀云、知人則哲能官人 | 則哲 | 貞道 |
| 431 | 17 | 12 | 財田 | 財田 | 財田、原作財田、據諸本改、丹本山本作射田 | 則哲、皇朝讀云、知人則哲能官人 | 則哲 | 財原作財、據朝本尾「細」本「旧校」改、水本「山」 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-----------------|------------------------|-------------|--|-------------|--------|--|--|--------|
| | | | | | | | | | | | 「田校」作射 |
| 432 | 17 | 12 | 川會 | 川會、原作川會、據諸本紀畧改 | 川會《會》 | 〔キアヒトホ山日〕 〔會〕下〕／曾〔夕〕 ／按和名抄英作國英夢郡川會 | 川會 | 川會郡 | 會原作會、據朝本尾本「細山」田校及紀畧改、按和名抄、美作國英多郡川會 | | |
| 433 | 17 | 14 | 農 | 農、類史〔一六五〕作濃 | 農 | 濃〔ル百六五〕／按和名抄石見國安濃郡川合 | 農 | 安濃「農」郡 | 濃原作農濃「農」類史百六十五改「作濃」、和名抄又同按古書異體通用不可濃改下文又作農、【存疑】安濃郡○和名抄又同○又字制ルヘンツノ又字亦ニ改ムヘシ | | |
| 434 | 17 | 14 | 郷 | | 群《郷》 | 〔ルキシアヒハ土六日〕 〔郷〕下〕 | 郷 | 川合郷 | 郷原作郡、拠水本朝本尾本白本「細」及類史紀畧改 | | |
| 435 | 17 | 14 | 嘉 | 嘉、原作素、據原本傍書印本傍書改 | 素《嘉》 | 〔ナ〕〔嘉〕下〕 | 素 | 礼含文素 | 素矣「内」本「田校」作嘉 | | |
| 436 | 17 | 15 | 靈龜瑞應園 | | 靈龜瑞應園 | 通志畧 | 靈龜瑞應園 | | | | |
| 437 | 17 | 16 | 不審 ^三 | 之、據紀畧補 | 不審 | 之〔ルキ〕〔常〕下〕 | 不審 | 帝謙而不審 | 當下類史紀畧有之字 | | |
| 438 | 18 | 1 | 一（遣 右〕間） | | 一（遣 右〕間） | 使〔キ） | 一（遣 右〕間） | 遣右中辨 | 遣下紀畧有使字 | | |
| 439 | 18 | 2 | 斯 | | 斯 | | 斯 | | | | |
| 440 | 18 | 2 | 可信 | 可信、内本可作所、廣 不本印一本作所任 | 可《所一 本》信 | ナ〔所一本〕下〕 | 所任 | 豈非虛之所任 | 所原作可、拠夫「内」本 旧校改、任原作信、拠旧 校改 | | |
| 441 | 18 | 2 | 朕自在大 興 | 農、原作素、據原本傍書印一本朝本山本改 | 朕自在大 興 | 〔ア山〕〔興一本〕下〕 ／朕自在大興、興一本 | 朕自在大 興 | 朕自在大興 | 農原作興、拠朝本夫「内」 本「山」旧校改、狩谷望 | | |

| | | | | | | | | |
|-----|----|---|----------|---------------------------------|-----------|--------------------------------|--------------|-----------------------------------|
| | | | | | 一本) | 作跋為是、按統後紀十三(五右)朕自在大京、拠此、寔是哀之誤乎 | | 之云、冀一本作獲為是、按統後紀十三、朕自在大京、拠此、實是哀之誤乎 |
| 442 | 18 | 3 | 家 | | | 論語 | | |
| 443 | 18 | 3 | 白龜 | 白龜、原作白龜、據尾本内本細本改 | 日《白》 亀 | 〔ヒナホ〕〔白〕下 ／自〔夕日〕 主〔日〕 | 今白亀甘藤 之祥至 | 白原作日、拠尾本夫「内」本「細」旧校改 |
| 444 | 18 | 3 | 至 | | | | | |
| 445 | 18 | 3 | 今(2字目) | | 今 | 今〔旧土ハ日〕 | | |
| 446 | 18 | 3 | 荒 | | 忘《荒》 | 〔アナハイ土ホ〕〔荒〕下) | 荒 | 荒原作忘、拠朝本夫「内」本「細」旧校改 |
| 447 | 18 | 3 | 著自 | 著自、自原作白、據諸本改 | 著白 | 自〔クアアハク土〕 | 著自 | 自原作白、拠水本朝本内本旧校改 |
| 448 | 18 | 4 | 往鑿 | 往鑿、原作狂鑿、據諸本改 | 往鑿 | 往〔一本クアアヒ土ホ日〕狂〔日〕 | 非無往鑿 | 往原作狂、拠水本朝本尾本大本「細」改 |
| 449 | 18 | 4 | 上徳 | | 上徳 | 老子三十八章 | 上徳 | |
| 450 | 18 | 4 | 盛徳 | | 盛徳 | | 盛「感」徳之祥 | 盛「感」原作盛徳「内」本旧校作盛「改」 |
| 451 | 18 | 4 | 絶 | | 絶《絶》 | 〔白ア土ホ山日〕〔絶〕下) | 絶 | 絶原作絶、拠白本朝本「細山」旧校改、按老子十九章、總聖兼習 |
| 452 | 18 | 4 | 曹 | 總聖、原作總聖據諸本改 胃、一作會、丹本日本城本昌本作曹 | 曹 | 曹〔旧刻クアハ土日〕／按曹是曹字之異体 | 道徳成曹 | 曹原作曹、拠水本白本日刻本改 |
| 453 | 18 | 5 | 漢光晋武 | | 漢光晋武 | 漢光晋武、光武建武中元々年、晋武太康六年可致 | 漢光晋武 | |
| 454 | 18 | 6 | 一(「進散」間) | | 一(「進散」間) | 一(「進散」間) 便(年) | 遺散位從五位下 | 遣下紀畧有便字 |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----------|------------|----------|----------------|--------------|---------------------------|--|----------|-------------|--|
| 455 | 18 | 7 | 推 | | 推 | | 推 | 推 (ウビ) | | 推 | 香帷障 | 椎原作推、扨尾本内本及類史五改、「正辭敬、席厨字古文見説文*」 |
| 456 | 18 | 8 | 一〔「月乙」間〕 | | 一〔「月乙」間〕 | | 一〔「月乙」間〕 | 大 | | 一〔「月乙」間〕 | | 占内本旧校作卜、「正辭敬作卜部為是齊衡二年正月紀作卜部同三年九月紀云宮主外從五位下卜部雄貞神祇少祐正六位上業基等屬姓占部宿祢、天安二年四月紀云、雄貞本姓卜部齊衡三年改姓占部宿祢可以證也*」 |
| 457 | 18 | 8 | 占 | 占部、印一本作卜部 | 占 | 占部、一作卜部 | 占 | | | 占 | 占部雄貞 | |
| 458 | 18 | 9 | 御巫 | | 御巫 | 御巫、原作御巫、據譜本紀署改 | 御巫 《巫》 | 〔キタアヒハオ土本〕 〔「巫」下〕／至〔日〕 | | 御巫 | 御巫無位 | 巫原作巫、扨尾本朝本尾本「細」及紀署改 |
| 459 | 18 | 9 | 无 | | 無 | | 無 | | | 無 | | |
| 460 | 18 | 9 | 複 | | 複 | | 複 〔日〕 | | | 複 | | |
| 461 | 18 | 9 | 祭 | 祭、據紀略補 | 祭 | 祭、據紀署補 | — | 祭〔キ〕 | | — | 向原津國八十嶋 | 圖下紀署有祭字 |
| 462 | 18 | 10 | 人村 | | 人村 | 人村、原作大夫、據譜本紀署改 | 大夫〔人 村一本〕 | 〔白キヒハ土ホタツ日〕 〔「人村一本」下〕 | | 人村 | 右京入村主 岑成 | 人村二字原作大夫、扨尾本本朝本尾本「細」旧校及紀署改 |
| 463 | 18 | 10 | 一〔「龜獻」間〕 | 獻之、此上紀署有以字 | 一〔「龜獻」間〕 | 獻之、此上紀署有以字 | 一〔「龜獻」間〕 | 以〔キ〕 | | 一〔「龜獻」間〕 | 獲白龜獻之 | 龜下紀署有以字 |
| 464 | 18 | 10 | 多度 | | 多度 | | 多度 | 桑名郡〔式〕 | | 多度 | | |
| 465 | 18 | 10 | 官 | | 官 | | 官 《官一本》 | 官〔「官一本」下〕 | | 官 | 列於官社 | 官原作官、扨尾本本朝本尾本「細」旧校改 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------------------|----------------------------|-------|---------------|-------|--------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 466 | 18 | 11 | 太(1字目) | | 太 | | 大 | | | | | | | | | | | | |
| 467 | 18 | 11 | 宮、據廣本傍書印一本内本補 | 宮、據内本紀畧補 | 一 | 宮〔キナ〕 | 宮 | 天照太神宮 | 原无宮字、摺内本旧校及紀畧補 | | | | | | | | | | |
| 468 | 18 | 11 | 下、廣本傍書印一本内本白イ本昌本作上 | 従八位下、内本白イ本昌本下作上 | 下 | 上〔ナハイ日〕 | 下 | 依豆従八位下 | 下内本旧校作上 | | | | | | | | | | |
| 469 | 18 | 11 | 太(2字目) | | 太 | | 大 | | | | | | | | | | | | |
| 470 | 18 | 11 | 主(3字目) | 主、廣本傍書印一本内本朝本坊本作生、格宜補任與此同 | 主 | 生〔ナ〕／ナシ〔ア土〕 | 主 | 神主土主 | 主内本旧校作生 | | | | | | | | | | |
| 471 | 18 | 12 | 鎌藏 | | 鎌藏 | 鎌藏、統後紀作鎌倉 | 鎌藏 | | | | | | | | | | | | |
| 472 | 18 | 12 | 太神宮 | 太神宮、原作圖一字、據廣本印一本及類史〔三〕紀畧改補 | 國 | 大神宮〔ル三キ〕 | 大神宮 | 向伊勢大神宮 | 大神宮原作圖一字、摺類史三紀畧改 | | | | | | | | | | |
| 473 | 18 | 12 | 細馬 | | 細馬 | 細〔ルキクアアハイ土ホ日〕 | 細馬 | 獻細馬五足 | 細原作箱、摺水本朝本「細」及類史紀畧改 | | | | | | | | | | |
| 474 | 18 | 13 | 賀茂大神社 | | 賀茂大神社 | 太〔日〕 | 賀茂大神社 | | | | | | | | | | | | |
| 475 | 18 | 14 | 先先 | | 先先 | ナシ〔ル五〕 | 先先 | 先先〔尔〕 | 類史〔五〕作〔尔〕 | | | | | | | | | | |
| 476 | 18 | 14 | 〔尔〕(2字目) | | 〔尔〕 | | 〔尔〕 | | | | | | | | | | | | |
| 477 | 18 | 14 | 并 | | 并 | 並〔日〕 | 並 | | | | | | | | | | | | |
| 478 | 18 | 14 | 〔波々〕 | | 〔波波〕 | 旧刻ナシ〔本本有〕 | 〔波〕 | 奉山賜〔波〕 | 原作波波、摺旧刻本朝一波字 | | | | | | | | | | |
| 479 | 18 | 14 | 可吉 | 吉、原作告、摺類史〔五〕改 | 可告 | 吉〔ル五ヒ日〕 | 可吉 | 可吉〔止〕 | 元覚補入吉作告、摺〔尾本及〕類史改、【存疑】可吉止○元覚補入○コレハイカ、ナリ、猶原トイ | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----------------------|--|----------------------|--|----------------------|------------------------------|--------------------|------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | |
| 480 | 18 | 15 | 但御馬 〔波〕馬寮 内〔尔〕 | | 但御馬 〔波〕馬寮 内〔爾〕 | | 但御馬 〔波〕馬寮 内〔尔〕 | 〔二字ホ本ナシ〕〔波〕 〔波〕馬 寮内〔尔〕 | 但御馬 〔波〕馬 寮内 | 〔但御馬〕〔波〕 馬寮内〔尔〕 | 〔翻本〕〔波〕馬二字无] |
| 481 | 18 | 15 | 〔尔〕 | | 〔尔〕 | | 〔尔〕 | 有磯〔尔〕 依〔尔〕 | 〔尔〕 | 有磯〔尔〕 依〔尔〕 | 補入无汉字、拠類史補 |
| 482 | 18 | 16 | 庭 | | 延 | | 庭 | 延〔白〕 | 延 | | |
| 483 | 18 | 16 | 〔尔〕（1 字目） | | — | | — | 尔〔日〕 | 〔尔〕 | | |
| 484 | 19 | 1 | 〔乃〕 | | 〔乃〕 | | 〔乃〕 | | — | | |
| 485 | 19 | 2 | 〔奈〕 | | 〔奈〕 | | 〔奈〕 | | 〔奈〕 | | |
| 486 | 19 | 3 | 一位 | | 一位 | | 一位 | | 一位 | | |
| 487 | 19 | 3 | 上〔尔〕 御冠〔尔〕 | | 上〔乃〕 御冠〔爾〕 | | 上〔乃〕 御冠〔尔〕 | 尔〔ヲアハシハシホ日〕 | 上〔尔〕 御冠〔尔〕 | 比賣神〔乎 波〕正四位 上〔尔〕 | 補入作正四位上〔乃〕御 冠〔尔〕、云居春日社記 補 |
| 488 | 19 | 4 | 朝廷 | | 朝廷 | | 朝廷 | 延〔白ヒ日〕 | 朝廷 | | |
| 489 | 19 | 4 | 堅磐〔尔〕 | | 堅磐 | | 堅磐 | 尔〔日〕〔磐〕下〕 | 堅磐〔尔〕 | | |
| 490 | 19 | 6 | 酌 | | 酌 | | 酌〔酌〕 | 〔ナ〕〔酌〕下〕 | 酌 | 下酌群言 | 酌内本日校作酌、群原作 郡、拠朝本尾本「細」日 校改、「正辭案本邦古抄 本諸書郡筆互通用事文類 聚引風俗通云郡者羣也、 又限名釋州国云郡羣也、 人所羣聚也、則知郡羣義 通、又案鈔期酌俗字*」 |
| 491 | 19 | 6 | 群言 | | 群言 本改 | | 群言、原作群言、據語 本改 | 郡〔群一 本〕 | 〔アヒハクホ〕〔群一 本〕下〕 | 群言 | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|---|-------|-------|----------|---|-------|----------|---|
| 492 | 19 | 6 | 鬱之痛弥切 | 鬱之痛彌切 | 鬱之痛彌切 | 周領未盡家多難予又集于鬱注云、鬱辛苦之物、周成王言我方幼冲未堪家多難而又集于辛苦之地、羣臣奈何捨我而弗助哉 | 鬱之痛彌切 | | 同原作同、拠朝本白木尾本「細」改、「正辭奏同即同字皆陸德明論語釋文云同本亦作同又顏真卿多寶塔銘細作同例*」 |
| 493 | 19 | 7 | 同 | 同 | 同《同》 | 同〔アハヒホ山〕 | 同 | 鬱渺大山同知收濟 | |
| 494 | 19 | 7 | 浮 | 浮 | 浮 | 辭（アハヒホ山）／浮作辭恐非、 | 浮 | | |
| 495 | 19 | 8 | 公 | 臣 | 群臣、諸本作群公 | 臣《公》 | 臣 | 不聽群臣之賀 | 臣本朝本尾本「細山」作公 |
| 496 | 19 | 8 | 重 | 重 | 重 | 清按重難也、戰國策臣之所重慮重留也註重猶難也、前漢淮南王傳文帝重自功實之註如淳曰重難也〔字典〕拠此當訓〔ハヱカル〕 | 重 | | |
| 497 | 19 | 9 | 七席 | 七席 | 七席 | 由札 | 七席 | | |
| 498 | 19 | 9 | 願復乃民 | 願復乃民 | 願復乃民 | 詩鬱莪 | 願復乃民 | | |
| 499 | 19 | 9 | 三槐九棘 | 三槐九棘 | 三槐九棘 | 周礼秋官朝士 | 三槐九棘 | | |
| 500 | 19 | 9 | 緝熙 | 緝熙 | 緝熙 | 詩文王 | 緝熙 | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----------|-----------------------|----------|----------|----------------------------|-----------------|------------|----------|---------------|-----------------------------------|
| 501 | 19 | 9 | 庶續 | | 庶續 | | 庶續 | 書苑典 | 崇〔田刻日夕〕／本同 | 庶續 | 「告於宗社」 | 「宗田刻本作崇」 |
| 502 | 19 | 9 | 宗 | | 宗 | | 崇〔田刻日夕〕／本同 | 壇〔タロ〕／壇〔ア〕 | 壇 | 宗 | 夫封壇宇齒 | 壇尾本「細」作「壇、水本作壇、朝本作壇、「山岡凌明」云「種繼略字」 |
| 503 | 19 | 9 | 壇 | 壇、廣々本丹本昌本作壇、印本作壇 | 壇 | 壇 | 壇〔タロ〕／壇〔ア〕 | 壇〔タロ〕／壇〔ア〕 | 壇 | 宗 | 夫封壇宇齒 | 壇尾本「細」作「壇、水本作壇、朝本作壇、「山岡凌明」云「種繼略字」 |
| 504 | 19 | 10 | 恒 | | 恒 | 恒〔恒〕 | 〔タラヒ〕〔恒〕下 | 〔タラヒ〕〔恒〕下 | 恒 | 恒 | 獻端不恒 | 恒原作恒、拠水本朝本尾本改 |
| 505 | 19 | 11 | 租 | | 租 | 租〔租〕 | 〔キナ〕〔租〕下 | 〔キナ〕〔租〕下 | 租 | 租 | 各免其租 | 租原作租、拠諸本及紀畧改 |
| 506 | 19 | 12 | 滯 | | 滯 | 滯 | 〔ア上〕／清按薄博雅誤也、郭璞江賦林無不滯、作解者非 | 滯 | 滯 | 滯 | | |
| 507 | 19 | 13 | 總 | | 總 | 総 | | | 総 | 総 | | |
| 508 | 19 | 13 | 練 | | 練 | 練〔練〕 | 〔タラヒヒハ土ホ山日〕〔練〕下 | 〔タラヒヒハ土ホ山日〕〔練〕下 | 練 | 練 | 簡練行者 | 練原作練、拠水本朝本白本尾本「細山」旧校改 |
| 509 | 19 | 13 | 一〔永〕下 | 永、此下或當補世字 | 一〔永〕下 | 一〔永〕下 | | | 一〔永〕下 | 一〔永〕下 | 永不絶 | 旧校永下有永字 |
| 510 | 19 | 14 | 七 | 七、上文七月丙戌條及廣本傍書印一本作〔六〕 | 七 | 七〔六一本〕 | 上文二右〔六一本〕下 | 上文二右〔六一本〕下 | 六 | 六 | 正六位上大 中臣朝臣 | 六原作七、拠旧校及上文七月丙戌条改 |
| 511 | 19 | 14 | 主 | | 主 | 主 | | | 主 | 主 | | |
| 512 | 19 | 14 | 攝津國住吉大神社 | | 攝津國住吉大神社 | 攝津國住吉大神社 | 住吉郡〔式〕／攝〔旧〕 | | 攝津國住吉大神社 | 攝津國住吉大神社 | | |
| 513 | 19 | 14 | 也 | 也、原作之、拠廣本傍朱書印一本改 | 之 | 之〔也一本〕 | | | 也 | 也 | 賽宿禰也 | 也原作之、拠内本日校改 |
| 514 | 19 | 15 | 參 | | 參 | 參〔旧〕 | | | 參 | 參 | | |
| 515 | 19 | 15 | 七月 | | 七月 | 七月〔月一本〕 | 〔タラヒハイホ日〕〔月一本〕下 | | 七月 | 七月 | 先是七月 | 月原作日、拠水本朝本尾本「細」旧校改 |
| 516 | 19 | 15 | 埜 | | 埜 | 埜〔旧〕 | 埜〔旧〕／今大渡／拾 | | 埜 | 埜 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-----------|--|--|----------------|--|----------|--|--------------------------------|-----------|--|--|--|---------------------------|
| 517 | 20 | 1 | 埼 | | | 崎 | | (516頁参照) | | 崎 | 大 | | | | |
| 518 | 20 | 1 | 大 | | | 大 | | | | 大 | 大 | | | | |
| 519 | 20 | 2 | 占 | | | 占 | | | | 占 | 占 | | | | 占内本田枝作卜、「正辭案此(正從作卜部誤脱出*)」 |
| 520 | 20 | 3 | 齋 | | | 齋 | | | | 齋 | 齋 | | | | |
| 521 | 20 | 4 | 修 | | | 修 | | | | 修 | 修 | | | | |
| 522 | 20 | 4 | 禊 | | | 禊 | | | | 禊 | 禊 | | | | |
| 523 | 20 | 5 | 勅 | | | 勅、據原本傍書印一本及記略補 | | | | 勅、據記略補 | — | | | | 賜忠貞親王 普額 |
| 524 | 20 | 6 | 山科山陵 | | | 山科山陵 | | | | 山科山陵 | 山科山陵 | | | | |
| 525 | 20 | 7 | 倍 | | | 陪 | | | | 陪 | 陪 | | | | |
| 526 | 20 | 7 | 前田原山陵 | | | 前田原山陵 | | | | 前田原山陵 | 前田原山陵 | | | | |
| 527 | 20 | 7 | 後田原山陵 | | | 後田原山陵 | | | | 後田原山陵 | 後田原山陵 | | | | |
| 528 | 20 | 8 | 柏原山陵 | | | 柏原山陵 | | | | 柏原山陵 | 柏原山陵 | | | | |
| 529 | 20 | 9 | 楊梅山陵 | | | 楊梅山陵 | | | | 楊梅山陵 | 楊梅山陵 | | | | |
| 530 | 20 | 9 | 嵯峨山陵 | | | 嵯峨山陵 | | | | 嵯峨山陵 | 嵯峨山陵 | | | | |
| 531 | 20 | 10 | 大原山陵 | | | 大原山陵 | | | | 大原山陵、淳和天皇乎、 宣攻續後紀淳和院御 之條 | 大原山陵 | | | | 大原山陵 |
| 532 | 20 | 10 | 參 | | | 參 | | | | 參、一作藤 | 參 | | | | |
| 533 | 20 | 10 | 葛 | | | 葛 | | | | 葛、一作藤 | 葛 | | | | |
| 534 | 20 | 11 | 深草山陵 | | | 深草山陵 | | | | 仁明 | 深草山陵 | | | | |
| 535 | 20 | 11 | 嘉祥三年八月十七日 | | | 嘉祥三年八月十七日 | | | | 按上文公卿抗表八月丙辰(十一日)甲子(十九日)也 | 嘉祥三年八月十七日 | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|--|-------------------|---------------------|--|
| 536 | 20 | 13 | (天) | | 〔天〕 | — | 天(ツナ) | (天) | 杖〔ツ〕進 出〔天〕 校補 | 原无天字、惣水本内本 田校補 |
| 537 | 20 | 14 | 稻荷神 | | 稻荷神 | 稲荷神 | 紀伊郡〔式〕 | 稲荷神 | | |
| 538 | 20 | 14 | 廣田神 | | 廣田神 | 廣田神 | 武庫郡〔式〕 | 廣田神 | | |
| 539 | 20 | 14 | 大和大國 魂神 | | 大和大國 魂神 | 大和大國 魂神 | 山辺郡〔式〕 | 大和大國 魂神 | | |
| 540 | 20 | 15 | 石上神 | | 石上神 | 石上神 | 山辺郡〔式〕 | 石上神 | | |
| 541 | 20 | 15 | 大神大物 主神 | | 大神大物 主神 | 大神大物 主神 | 城上郡〔式〕 | 大神大物 主神 | | |
| 542 | 20 | 15 | 葛木一言 主神 | | 葛木一言 主神 | 葛木一言 主神 | 葛上郡〔式〕 | 葛木一言 主神 | | |
| 543 | 20 | 15 | 夜岐布山 口神 | | 夜岐布山 口神 | 夜岐布山 口神 | 添上郡〔式〕 | 夜岐布山 口神 | | |
| 544 | 20 | 15 | 恩智大御 食津彥命 神 | | 恩智大御 食津彥命 神 | 恩智大御 食津彥命 神 | 高安郡〔式〕 | 恩智大御 食津彥命 神 | | |
| 545 | 20 | 16 | 丹比神 | | 丹比神 | 丹比神 | 丹比郡〔式〕 | 丹比神 | | |
| 546 | 20 | 16 | 阿耶賀神 | 耶、印一本内本作射、 耶邪相通 | 阿耶賀神 | 阿耶賀神 | 〔耶〕横〔式〕／按干暴字 書云耶邪通字 | 阿耶賀神 | 阿耶賀神 | 耶内本日按作射、按干暴 字書 |
| 547 | 20 | 16 | 熱田神 | | 熱田神 | 熱田神 | 愛智郡〔式〕 | 熱田神 | | |
| 548 | 21 | 1 | 氣比神 | | 氣比神 | 氣比神 | 敦賀郡〔式〕 | 氣比神 | | |
| 549 | 21 | 1 | 筑前國宗 俊神 | | 筑前國宗 俊神 | 筑前國宗 俊神 | 宗像郡〔式〕 | 筑前國宗 俊神 | | |
| 550 | 21 | 1 | 籠門神 | | 籠門神 | 籠門神 | 御笠郡〔式〕 | 籠門神 | | |
| 551 | 21 | 1 | 正 | 正、原作從、今從類史 〔一四〕 | 正 | 從 | 正〔九十四〕／按仁明 紀承和七年四月自從五 位下進從五位上則作正 為是 | 正 | 籠門神正五 位上 | 正原作從、據類史十四改、 按統日本後紀、承和七年 四月、此神自從五位下進 從五位上、則作正為是 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|---------------------------|----------------------|--------------------------------|---|---------------------------|-----------------------|---|------------------|
| 552 | 21 | 1 | 高良玉垂 命神 | | 高良玉垂 命神 | 高良王 《王》垂 命神 | 三井郡〔式〕／〔旧制〕 ハズビル土〔王〕下 | 高良玉垂 命神 | 高良玉垂神 改 | 玉原作王、撰諸本及類史 改 |
| 553 | 21 | 2 | 健甕龍命 神 | | 健甕龍命 神 | 阿蘇郡〔式〕 | 健甕龍命 神 | | | |
| 554 | 21 | 2 | 三嶋神 | | 三嶋神 | 賀茂郡〔式〕 | 健甕龍命 神 | | | |
| 555 | 21 | 2 | 伊豆國伊 古奈比咩 命神 | | 伊豆國 ^四 古奈比咩 命神 | 伊古〔白ル十四式クア ヒハオ土赤田〕〔右〕 機〕／十四丁ウ可攷 〔比〕機〕／式伊豆國 賀茂郡伊古奈比咩神社、 阿波神社、物忌奈命神 社 | 伊豆國伊 古奈比咩 命 | 伊古奈比咩 命 | 伊古奈原作右奈、撰諸本 及類史又下文十一月甲戌 条等改、按神名式云、伊 豆國賀茂郡伊古奈比咩神 社 | |
| 556 | 21 | 2 | 阿波 | 阿波、下文作安房 | 阿波 | 阿波、下文作安房 | 阿波 | 阿波 | | |
| 557 | 21 | 2 | 乃 | 乃、下文无 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | | |
| 558 | 21 | 3 | 從（1字 目） | | 從 | 從〔ルクアヒ土赤〕 | 從 | 物忌奈乃神 並授從五位 上 | 原无從字、撰水本朝本尾 本「細」旧校類史補 | |
| 559 | 21 | 3 | 伊富岐神 | | 伊富岐神 | 坂田郡〔式〕 | 伊富岐神 | | | |
| 560 | 21 | 3 | 伊太祁尊 神 | | 伊太祁尊 神 | 名草郡〔式〕 | 伊太祁尊 神 | | | |
| 561 | 21 | 3 | 癸丑以伊 勢國多度 神列於官 社 | 癸丑、此條已見九月甲 申條、此恐衍 | 癸丑以伊 勢國多度 神列於官 社 | 按九月甲申以多度大神 列於官社此重出 | 癸丑以伊 勢國多度 神列於官 社 | 癸丑以伊勢 國多度神列 於官社 | 按上文九月甲申條云、以 多度大神列於官社、此重 出 | |
| 562 | 21 | 4 | 己未（項 目） | 己未條、原在庚申條次、 據原本移 | 己未（項 目） | 己未、當移庚申上 | 庚申（項 目） | 己未（云々） | 此条原有庚申奈下、諸本 皆同、今雖干支正之、而 旧校云、今雖干支己未、 當移庚申上、今從此議改、 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----------|----------------------|--------|---------------------|--------------|-------|-----------|-------|-----------------------------------|---------------------------|
| | | | | | | | | | | | | |
| 571 | 21 | 9 | 一〔坐伊〕間三字 | 坐、此下或當補紀伊國 | 「坐」 | 坐、衍字、不然此下脫文 | | | | | 借字ナリ、下ナルモ同シ | |
| 572 | 21 | 9 | 伊太郎曾神社 | 伊太郎曾神社 | 伊太郎曾神社 | 式紀伊國各草郡 | 伊太郎曾神社 | 坐 | 於坐伊太郎曾神社 | | 旧校云、坐字衍、而諸本共有、今翻「站」存疑、旧校云、社下有業命二字 | |
| 573 | 21 | 9 | 業命 | 業命、據上下文例補 | — | 禰祖、此下恐脫業命二字 | — | — | — | | | |
| 574 | 21 | 9 | 禰 | | 祈 | 祈、諸本作禰 | 祈 | 禰 | 禰中賜 | 禰 | 禰原作祈、據水本朝本尾本及類史改 | |
| 575 | 21 | 9 | | | | | 乎〔一本〕 | 御冠〔平] | 御冠〔平] | 御冠〔平] | 御冠〔平] | 乎原作尔、據大本改、授原 作上、據大本朝本改 |
| 576 | 21 | 9 | 授 | 授、原作〔尔] | 授 | 授、原作〔爾] | 授〔一本ア〕／奉授 | 授 | 授〔一本ア〕／奉授 | 授 | 授 | |
| 577 | 21 | 10 | 庭 | | 廷 | | | 廷 | | | | |
| 578 | 21 | 10 | 常磐 | 〔尔] 據印一本補 | 常磐 | 常磐、此下諸本有〔爾]字、下同 | 尔〔ア土ホ山] | 常磐〔尔] | 常磐〔尔] | 常磐〔尔] | 常磐〔尔] | 上尔字原作无、據朝本日校補 |
| 579 | 21 | 10 | 賜 | 賜、據類史〔一四]補 | 賜 | 賜、據朝本筋本自了本類史一四補 | 賜〔ル十四ア土日イ] | 賜 | 賜 | 賜 | 護幸奉賜〔停止] | 上尔字原无、據朝本日校及類史補 |
| 580 | 21 | 11 | 中 | 中、原作六、據下文十一月壬寅條及印一本改 | 中 | 右中辨、中原作六、據一本及下文改 | 大〔中一本] | 大 | 大 | 大 | 右大辨兼右近衛中將 | 右大辨、旧校作右中辨 |
| 581 | 21 | 11 | 向圓神 | | 向圓神 | | 宮内省坐神式 | 向圓神 | 向圓神 | 向圓神 | | |
| 582 | 21 | 12 | 御冠 | 〔平] 原作〔尔]、據類史改 | 御冠〔平] | 冠〔平]、〔平] 原作〔爾] 據類史改 | | 御冠〔平] | 御冠〔平] | 御冠〔平] | 從成以下功御冠〔平] | 乎原作尔、據類史改 |
| 583 | 21 | 12 | 狀 | 狀 據類史補 | 狀 | 〔平] 據類史補 | 乎〔ル] (〔狀] 下) | 狀 | 狀 | 狀 | 此狀〔平] 則食〔天] | 乎字原无、據旧校及類史補 |
| 584 | 21 | 12 | 庭 | | 廷 | | 庭〔ル日] | 廷 | 廷 | 廷 | | |
| 585 | 21 | 13 | 常磐 | 〔尔] | 常磐 | | 尔〔ルヒハ日] | 常磐 | 常磐 | 常磐 | 常盤〔尔] | 上尔字原无、據尾本日校及類史補 |
| 586 | 21 | 13 | 伊達神 | | 伊達神 | | 式名草郡 | 伊達神 | 伊達神 | 伊達神 | | |
| 587 | 21 | 13 | 志摩神 | | 志摩神 | | 同 | 志摩神 | 志摩神 | 志摩神 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|-------------|----------------------|--------------------------|-------------|---------------------------|------|----------------|--|
| 588 | 21 | 13 | 静火神 | | 静火、火原作六、據一 本類史二四及神名式改 | 静火神 | 火〔一本ル十四式〕／ 同 | 静火神 | 静火神 | 火原作六、拠本旧校及 類史神名式改 |
| 589 | 21 | 13 | 並 | | 並、類史无 | 並 | | 並 | | |
| 590 | 21 | 14 | 呪 | | | 呪 | | 呪 | | |
| 591 | 21 | 14 | 壹岐嶋 | | | 壹岐嶋 | 嶋〔田〕〔岐〕横／ 式石田郡 | 壹岐嶋 | | |
| 592 | 21 | 15 | 伊豆國 | | | 伊豆國 | 式賀茂郡〔十二丁ウ〕 | 伊豆國 | | |
| 593 | 22 | 1 | 横 | | | 横 | 横〔ホ〕 | 横 | | |
| 594 | 22 | 1 | 古 | | | 古 | 古〔ウアヒハク土ホ日〕 | 古 | 正五位下古 麻呂 | 古原作右、拠水本朝本尾 本「細」改、説撰「已」 見此卷上文、【存疑】古 麻呂○説已見上文○此五 字制ルヘシ |
| 595 | 22 | 2 | 嵯峨太上 | | | 嵯峨太上 | | 嵯峨太上 | | 山崎知雄云、按尾張上國、 目无大小別 |
| 596 | 22 | 2 | 尾張少目 | | | 尾張少目 | 按尾張上國目无大小別 | 尾張少目 | 為尾張少目 | |
| 597 | 22 | 5 | 新羅人 | | | 新羅人 《繼》人 | 〔タハヒ土ホ日〕〔羅〕 下 | 新羅人 | 新羅人沙良 真熊 | 山崎知雄云、拠水本朝本尾 本内本「細」改 |
| 598 | 22 | 5 | 「弘仁」 原本採 | 弘仁、二字符、内本无、 原本採 | | 弘仁 | ナシ〔ナ〕 | 弘仁 | 八年正月叙 外従五位下 | 原作弘仁八年六月、拠内 本旧校制弘仁二字、六月 改正月、按類史九十九云、 弘仁八年正月丁卯、授從 六位下吉田宿禰善主外従 五位下、可以証、【存疑】 八年○拠内本云々○此十 五字當作今拠内本旧校改 七字 |
| 599 | 22 | 6 | 正月 | 正月、原作六月、據類 史〔九九〕改 | | 正月 | ナシ〔ナ〕／清按六月 當作正月類史九十九云、 | 正月 | | |

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------------------------|----------------------------|------|--|-------|--------|---|
| | | | | | | 弘仁八年正月丁卯授從六位下吉田宿禰書主外從五位下可弘護 | | | 「是時下原有和泉二字、山崎知雄云、和泉二字後人傍注權入終為本文、此說□□然始存疑、尹詮云屬文法不遵從此說宜刪去」(□□は二字不審紙により判読不能)【存疑】是時○終為本文○終ハ遂ニ改ムヘシ |
| 600 | 22 | 7 | 「和泉」 和泉、二字衍、後人傍注誤為本文者 | 「和泉」 和泉、二字衍、後人傍注權入、終為本文 | 和泉 | 二字衍/和泉二字後人傍注權入、終為本文 | — | 「是時罷任」 | |
| 601 | 22 | 7 | 便 | | 便《便》 | 〔タヒハヤシ〕〔便〕下) | 便 | 便道之任 | 便原作便、摺諸本改 |
| 602 | 22 | 8 | 因 | | 因 | 因(クアラチ土赤日) | 因 | 因身病因 | 因原作因、摺水本朝本内本「細目校」改 |
| 603 | 22 | 8 | 興世 | | 興世 | 統後紀六(十一右) | 興世 | | |
| 604 | 22 | 8 | 信濃守 | | 信濃守 | 同九(三右) | 信濃守 | | |
| 605 | 22 | 9 | 叙正五位下 | | 叙五位下 | 正(ク土)／叙五位下、按五位下當作作(ママ)正五位上統後紀承和九年正月書主叙正五位上 | 叙正五位下 | 叙正五位上 | 正字原文、摺水本旧校補、上原作下、按統後紀、承和九年正月書主叙正五位上此此文改 |
| 606 | 22 | 9 | 木 | | 木《木》 | 〔タヒ土〕〔木〕下) | 木 | 木工頭 | 木原作木、摺諸本改 |
| 607 | 22 | 9 | 從四位下 | | 從四位下 | 統後紀十七(一左) | 從四位下 | | |
| 608 | 22 | 9 | 八月 | | 八月 | 上四丁左 | 八月 | | |
| 609 | 22 | 10 | 潔齋 | 潔齋、原作齋潔、據紀略改 | 潔齋 | 親、一作親、潔齋原作齋潔、據紀略改 | 潔齋(キ) | 齋潔 | |
| 610 | 22 | 11 | 座 | | 座 | | 座 | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|------------------------|--------------------|-------------------------------|--------------------|---------------|----|-----------|--|
| 611 | 22 | 12 | 有差 | | 有差 | 有差 | 有差、有原作在、據譜本類史九改 | 在《有一本》差 | 〔タルル土田〕〔有一本〕下 | 有差 | 賜縁有差 | 有原作在、拠水本朝本及類史九改 |
| 612 | 22 | 12 | 字 | 字 | | | | 老子 | | 字 | | |
| 613 | 22 | 12 | 黄屋 | 黄屋 | 黄屋 | 黄屋 | 黄屋置誼陳政事表、後漢仲長統傳論、助華政助重華也、謂堯舜也 | 黄屋 | 助重華也、謂堯舜也 | 黄屋 | | |
| 614 | 22 | 13 | 居 | 居 | 居、據譜本類史一七一補 | 居〔日タハハル百七十一土本〕 | | 居〔日タハハル百七十一土本〕 | | 居 | 黄屋傳居 | 居字原云、拠水本「細」旧校及類史百七十一補 |
| 615 | 22 | 13 | 獨 | 獨 | 獨、原作獨、據原本印一本及類史〔一七一〕改 | 獨〔獨一本〕下 | | 獨〔獨一本〕下 | | 獨 | 助華繼獨 | 獨原作独、拠類史改 |
| 616 | 22 | 13 | 勤 | 勤 | | | | 勤〔ハク〕 | | 勤 | | |
| 617 | 22 | 13 | 垂 | 乘 | | | | 乘〔垂〕下〕／垂〔日〕 | | 垂 | 馬履垂風 | 垂原作乘、拠水本朝本細及類史改 |
| 618 | 22 | 13 | 猶 | 獨 | | | | 猶〔獨〕 | | 猶 | 「猶回含存」 | 「猶旧刻旧校作獨」 |
| 619 | 22 | 14 | 蒸庶 | 蒸庶 | | | | 蒸庶 | | 蒸庶 | | |
| 620 | 22 | 14 | 刻 | 刻 | 刻、原作判、據朝本白一本據本類史改、尾本作判 | 判〔ヒ〕／刻〔日〕／刻〔タルハク土〕 | | 判〔ヒ〕／刻〔日〕／刻〔タルハク土〕 | | 刻 | 臆鑑庶以刻思 | 刻原作判、拠朝本「旧校」及類史改 |
| 621 | 22 | 15 | 禽 | 禽 | | | | 禽 | | 禽 | 空彼巢禽之害 | 禽原作禽、拠水本「及」類史改 |
| 622 | 22 | 15 | 難 | 艱 | 艱、昌本作難 | 難 | | 難 | | 艱 | 想難「艱」虞而益恐 | 難據原作艱「類史」兼拠旧刻本改「作難」、尹彦按宜作艱」(山澤) |
| 623 | 22 | 15 | 虞 | 虞 | | | | 虞〔旧刻日〕 | | 虞 | | |
| 624 | 22 | 16 | 拯 | 拯 | | | | 拯〔旧刻テハ土田〕 | | 拯 | 何憐於拯「拯」救 | 拯據原作拯、拠旧刻本朝本白本改「作拯」「安案作拯者是也、広韻云救也助也」／「拯救与上文死傷、 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|--------------------------|----------------------------|----|------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------------------------|---|
| 625 | 22 | 16 | 并 | | 並 | 並 | | | | 對斷然不可作類(不明)】 |
| 626 | 22 | 16 | 狄 | 狄、原作牧、據原本印一本及類史改 | 狄 | 狄、原作牧、據類史改 | 狄(ル) | 狄 | 並不問民狄(不明)】 | 狄原作牧、拠旧校及類史改、「狄亦作牧者似是不明)】 |
| 627 | 23 | 1 | 貸 | | 貸 | | 流《貸》 〔ルハナ〕〔貸〕下 ／流《オラ土本》 | 貸 | 開倉慶貸賑 | 貸原作流、拠類子改、水本朝本「細」作流、盖貸謄流、又謄流也、賑原作賑、拠記畧改、【存疑】開倉○蓋貸云々○此八字亦誤ノ二字ニ改ムヘシ |
| 628 | 23 | 1 | 賑 | | 賑 | | 賑(キ) | 賑 | | |
| 629 | 23 | 1 | <input type="checkbox"/> | 據類史補 | — | | 類史其上缺一字 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> (マヤ) 其在業 | 其上缺字、拠類史 |
| 630 | 23 | 1 | 委 | 委、原本傍書假 | 委 | 委、恐痿 | 委恐痿 | 委 | 「庶俾委陳者(不明)】 | 「山岡渡明云、委字恐痿、好谷望之云委恐痿(不明)】 |
| 631 | 23 | 1 | 挾纏 | 挾纏、原作挾業、御本作挾纏、今從原本定本各一本及類史 | 挾纏 | | 宣十二年左氏 | 挾纏 | | |
| 632 | 23 | 2 | 隳宰 | | 隳宰 | | 隳宰、宰字同、後漢西羌傳賂得多餘年隳 | 隳宰 | | |
| 633 | 23 | 4 | 隨(2字目) | | 隨 | | | 等 | | |
| 634 | 23 | 5 | 〔止〕 | 〔止〕今意補 | — | | | — | | |
| 635 | 23 | 6 | 緒 | | 緒 | | 祭(田) | 緒 | | |
| 636 | 23 | 6 | 參 | | 參 | | | 參 | | |
| 637 | 23 | 8 | 介 | 介、原作守、據原本印一本及類後紀嘉祥三年正月紀改 | 守 | 備前守、一本守作介 | 介(苗田)／按類後紀廿(四才)云貞守兼備前介、然当作介 | 介 | 備前介如故 | 介原作守、拠内本旧校改、按類後紀、嘉祥三年正月校長「甲午」条云、正五 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|---------------|--|---|-----------|-----------------------------------|------------|------------|---|
| | | | | | | | | | | 位下藤原朝臣貞守、為兼備前介、然「据此」作介為是 |
| 638 | 23 | 9 | 癸卯 | 癸卯 | 癸卯、原作壬卯、據諸本改 | 壬《癸》 | 〔アタヒハ土ホ〕〔癸〕下 | 癸卯 | 壬「癸」卯 | 壬「癸」原作癸「壬」、據水本朝本白本「細」旧校改、「尹證云冊壬宜作癸〔山澤〕」 |
| 639 | 23 | 11 | (美) (1 字目) | (見) | (見)、諸本作(美) | (見) | 美〔白ハ土本田〕 | (美) | 恐(美) 恐(美毛) | 上美原作見、據日本「細」改 |
| 640 | 23 | 12 | 一〔十 二月〕下 | (傍注に甲辰朔とあり) | | — | 甲辰朔大 | — | | |
| 641 | 23 | 12 | 上野國 | 甲辰朔 上野國 | | | 式雜馬郡 | 上野國 | | |
| 642 | 23 | 14 | 徒 | 徒 | | | 從〔口〕 | 徒 | | |
| 643 | 23 | 15 | 堤津嶋女 神 | 堤津嶋女 神 堤津嶋 有河内國茨田郡 堤根神社津島部神社 | 堤津嶋女 神 根、據内本補、神名式有河内國茨田郡堤根神社津島部神社 | 堤津嶋女 神 | 根〔子〕〔堤津〕間 ／式有河内國茨田郡堤根神社津嶋部神社疑是 | 堤根津嶋 女神 | 堤根津嶋女 神 | 根字源无、據内本旧校補、按神名式「有」河内國茨田郡堤根神社疑是 |

(注) 「文徳錄二」「文徳攷本存続」「攷異」

- 文徳錄二
 加茂〔一オ〕 賀(原)
 真子〔一ウ〕 女王(原)
 斯臻〔七ウ〕

文徳稿本存疑
 兼 此字末画ヲ缺クヘシ書中統字ヲハ缺画シタリ
 率 旧刻本ニハ皆釋二作レリ、コノハ俗字ナレト此方ノ古書ニハ多ク此體ヲ用キタリ、但シ字典ニハホコレラ古文ナリトイヘレト誤也、今ハ元寛九改正ニ从ヒタルニヤ

暨 旧刻ニハ皆整ノ字ヲ用キタリ俗体ナリ、コレモ元寛ニ从ヒタルニヤ
重補〔二右〕 補トカクヘシ
巖岫〔四左〕 巖ト改ムヘシ

攷異

按改〔一右〕 イツレカ一字ニテヨロシ
當拠其改正〔同上〕 此五字削ルヘクオホユ
仍不輕改 故ニトアルヘシ
今不輕改 此四字ナクトモヨシ
匠原作造〔三右〕 旧板ニハ近トアリ近ノ字譌ナリ、近ハ匠ノ俗体ナリ
与本文同〔三左〕 与舊同トイフヘシ
前後紀文例補〔五右〕 前後紀文ノ四字削ルヘクオホユ、以下皆同

